

[授業提案]

キャリア教育の授業提案—歌里亜市立^{かりあ}轅^{わだち}中学校2年生を対象として—

藤田 晃之	(筑波大学 人間系 教育学域・教授)
鄭 一葦	(人間総合科学研究科 博士前期課程 教育学専攻・1年)
米田 陸王	(修士課程 教育研究科 教科教育専攻 社会科教育コース・2年)
得居 千照	(人間総合科学研究科 博士前期課程 教育学専攻・1年)
村田 翔吾	(人間総合科学研究科 博士前期課程 教育学専攻・1年)
栗原 和弘	(人間総合科学研究科 博士前期課程 教育学専攻・1年)
野稻 剛	(人間総合科学研究科 博士前期課程 教育学専攻・1年)
川端 舞	(人間総合科学研究科 博士前期課程 教育学専攻・2年)
小宅 優美	(人間総合科学研究科 博士前期課程 教育学専攻・1年)
本田 辰雄	(人間総合科学研究科 博士前期課程 教育学専攻・1年)
小山田 建太	(人間総合科学研究科 博士前期課程 教育学専攻・2年)
岡安 翔平	(人間総合科学研究科 博士前期課程 教育学専攻・1年)
川上 若奈	(人間総合科学研究科 博士前期課程 教育学専攻・1年)
神田 あずさ	(人間総合科学研究科 博士前期課程 教育学専攻・1年)
張 羽希	(人間総合科学研究科 博士前期課程 教育学専攻・1年)
高野 貴大	(人間総合科学研究科 博士前期課程 教育学専攻・1年)

1. 授業提案構想に至る経緯

今日、「幼児期の教育から高等教育まで各学校段階を通じた体系的・系統的なキャリア教育」の充実が求められ、その実践は「子ども・若者の発達の段階に応じて学校の教育活動全体を通じた指導」を基盤とするものと位置づけられている(「第2期教育振興基本計画」第2部I1(4)成果目標4・基本施策13)。教育活動全体を通じたキャリア教育の実践については、2011年1月に中央教育審議会がとりまとめた「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」においても、「キャリア教育はそれぞれの学校段階で行っている教科・科目等の教育活動全体を通じて取り組むもの」(第2章2(1))と明示される。教育活動全体を通じた指導は、今日の学校におけるキャリア教育実践の基本的な方針であると言えよう。

また、「第1期教育振興基本計画」が、「これまで教育施策においては(中略)PDCA(Plan-Do-Check-Action)サイクルの実践が必ずしも十分でなかった。今後は施策によって達成する成果(アウトカム)を指標とした評価方法へと改善を図っていく必要がある(第3章(1))」との方針を明示し、それ以降、PDCAサイクルに基づいた教育実践が強く求められている。例えば、文部科学大臣による中央教育審議会への諮問「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について(26文科初第852号)」(2014年11月20日)は、諮問理由に続いて「以下の点を中心に御審議をお願いいたします」と述べ、その冒頭事項として「第一に、教育目標・内容と学習・指導方法、学習評価の在り方を一体として捉えた、新しい時代にふさわしい学習指導要領等の基本的な考え方についてであります」と記している。次期学習指導要領が、各学校に対してPDCAを基盤とした教育課程編成を強く要請することは確定的であると見

なしてよいだろう。当然ながら、教育活動全体を通じた指導によるキャリア教育もその例外とはならない。明確な目標の設定 (P)、それらの達成に向けた教育活動全体を通じた指導 (D)、成果検証 (C) と改善 (A) は、これまでもキャリア教育にとっての基本方針とされてきたが (中央教育審議会 2011, 第 2 章(2))、今後一層の徹底が不可避の課題となるに違いない。

しかしながら、中学校・高等学校における実践は、これらの基本的な方針から大きく乖離しているのが現状である。

例えば、国立教育政策研究所が 2012 年 10 月-11 月に実施した「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査」¹の結果は、大多数の学校、とりわけ中学校・高等学校の教育課程において、キャリア教育が学級活動・ホームルーム活動、及び、総合的な学習の時間のみに位置づけられている現状を浮き彫りにしている。各教科をキャリア教育の実践の機会として認識している中学・高校は 3 割台にとどまり、同時に、体験活動への著しい傾斜が見られることも確認された (表 1)。中央教育審議会 (2011) は、「『体験活動が重要』²という側面のみをとらえて、職場体験活動の実施をもってキャリア教育を行ったものとみなしたりする傾向が指摘される」としているが、まさに「草創期のキャリア教育」における焦点の残像が各学校の実践に色濃く残っていることが看取される。

表 1 各校の教育課程におけるキャリア教育の位置づけ (2012 年度)
「年間指導計画には、以下の内容が具体的に記されていますか [学校調査]」への回答結果

	小学校	中学校	高等学校
学級活動・ホームルーム活動におけるキャリア教育	80.2%	83.2%	79.8%
道徳におけるキャリア教育	65.4%	46.8%	—
総合的な学習の時間におけるキャリア教育	92.3%	89.8%	82.9%
各教科におけるキャリア教育	72.2%	32.4%	32.0%
キャリア・カウンセリング	5.7%	55.9%	61.6%
キャリア教育にかかわる体験的な学習	74.9%	87.4%	89.8%
上記に該当するものはない	0.0%	0.0%	0.0%

出典：国立教育政策研究所 生徒指導・進路指導研究センター (2013)

『キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査 第一次報告書』(p.35・表 9)

さらに、同調査は、①多くの学校においてキャリア教育の全体計画・年間指導計画が策定されつつも、それらに「キャリア教育の成果に関する評価計画」を含む学校は少数にとどまっており、②多くの学校で評価をすることを前提とした具体的な目標設定がなされておらず、③大多数の教員が「キャリア教育の成果に関する評価」が今後重要になると認識しながら、評価の仕方がわからず悩んでいる実態も明らかにしている (表 2)。計画 (P) 策定時に設定した目標が具体的ではないため、その達成の程度を評価すること (C) が困難な状況が続いていると推察される。また、目標が抽象的であるゆえに、キャリア教育の実践 (D) において、各教科の単元を通して育成する力との接点も見出しにくく、教育活動全体を通

¹ 学校調査 (小・中・高合計依頼数 2,500 : 回収率 99.5%)、学級・ホームルーム担任調査 (同 5,000* : 92.2%)、児童生徒調査 (同 13,383 : 97.7%)、保護者調査 (同 13,383 : 91.1%)、卒業生調査 (中・高のみ 5,179 : 51.6%)。*担任調査については、該当学年 (小学校 6 年、中学校・高等学校 3 年) の学級・ホームルーム担任教員の中から 2 名を対象としているが、該当学年の学級数が 1 の場合、当該学級の担任 1 名しか回答していないため、依頼数の実数は把握できていない。

² 文部科学省は 2005 年に、中学校における 5 日間の職場体験活動 (キャリア・スタート・ウィーク) を推進することを柱とした「キャリア教育実践プロジェクト」を開始し 4 年間継続させた。

じた指導を困難にしているのではなからうか。

表2 キャリア教育の評価をめぐる現状（2012年度）

	小学校	中学校	高等学校
キャリア教育の全体計画がある学校	63.4%	81.3%	70.4%
キャリア教育の年間指導計画がある学校	46.7%	76.7%	80.4%
「キャリア教育の成果に関する評価計画」が全体計画に記されている学校	8.2%	11.5%	20.7%
「児童生徒が、学年末や卒業時まで『〇〇ができるようになる』など、具体的な目標を立てること」を計画策定時に重視した学校	24.2%	27.5%	30.3%
「取組の改善につながる評価を実施すること」を計画策定時に重視した学校	7.4%	13.7%	16.6%
「キャリア教育の成果に関する評価」が今後重要になると思う教員	81.2%	84.9%	74.4%
「学級等のキャリア教育について困ったり悩んだりしていること（小学校14項目・中学校・高等学校18項目）」のうち「評価の仕方が分からない」を選択した教員	33.2% (第3位)	34.9% (第2位)	31.0% (第2位)

出典：国立教育政策研究所 生徒指導・進路指導研究センター（2013）『キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査 第一次報告書』（p.34-36・表6-10, p.86, p.153, p.262）を基に筆者作成

このような状況に鑑み、人間総合科学研究科博士前期課程教育学専攻で開設する「キャリア教育学特講（通年・全20回・2単位科目）」では、後半10回分（秋学期A・Bモジュール分）を充て、教育活動全体を通じたキャリア教育の実践構想を立案することを通して、今後のキャリア教育の在り方を具体的に探ることとした。その際、より現実的な構想を練ることができるよう、架空の自治体と学校を設定し、その状況の下で実現可能な授業提案を受講者全員で立案することを試みた。なお、初発となる今回は、職場体験活動が広く浸透し、それゆえに職場体験活動のみを焦点化しがちであると想定される中学校第2学年を対象を限定した³。

以下、今回設定した架空の自治体（歌里亜市）と学校（轍中学校）の概略と、その設定を基に授業提案を構想したプロセスについて説明する。

2. 歌里亜市及び轍中学校の設定

まず、「キャリア教育学特講」の授業担当者である藤田が当初設定した「歌里亜市」及び「轍中学校」の概略と、轍中学校が置かれた状況を示す。なお、「歌里亜」は「キャリア」との音の類似性から、「轍」はキャリアの語源（中世ラテン語「carraria」：轍・車道）から発想し、それぞれ名付けたものである。

今回は、歌里亜市教育委員会が、市内全小中学校に対してキャリア教育の全体計画及び年間指導計画の策定を求め、その方針への対応が急務の課題として浮上した学校として轍中学校を設定した。また、

³ 2014年度現在、国内の中学校における職場体験活動の実施率は98.4%である。また、実施校のうち86.5%が、2年生を「職場体験を実施している主たる学年」と報告している。（国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター「平成26年度職場体験・インターンシップ実施状況等調査結果（概要）」2015年11月30日（<http://www.nier.go.jp/shido/centerhp/i-ship/h26i-ship.pdf>・2016年3月30日最終閲覧）

「キャリア教育学特講」の受講者は轍中学校の教員であり、各教科等担当者会（ワーキンググループ）の主任（及び副主任）であるとの設定の下で授業提案（指導案）の作成・発表にあたるものとした。以下、歌里亜市・轍中に関する記述においては、実際の学校の例に倣い、西暦ではなく元号表記とする。

（１）歌里亜市・轍地区・轍中学校

○ 歌里亜市

- ・ 平成 17 年、八馬間（やまあい）町、歌里亜市、轍町の一市二町合併によって成立
- ・ JR が市を東西に横断し、駅は旧歌里亜市内に 2 駅
- ・ 人口はおよそ 65,000 人

○ 轍地区（旧轍町）

- ・ 昭和 50 年代後半の工業団地誘致成功を機に、大規模な農地転換と雑木林の伐採を図った
- ・ いわゆる「旧住民」は地区人口の五分の一ほど
- ・ 地区内の工業団地に勤務する住民、地区北部のショッピングセンターに勤務する住民、南に隣接する外開（とかい）市内の企業に勤める住民が多く見られる

○ 轍中学校（通学区：旧轍町）

- ・ 通学区内に小学校 2 校 [轍小学校（1 学年 3 学級）、轍東小学校（1 学年 2 学級）]
- ・ 1 学年 4 学級（第 2 学年 1～4 組：各学級の生徒数は 32 名（男女同数 16 名ずつ））
- ・ 全国学力・学習状況調査の結果、成績はおおむね良いが、質問紙調査において全国を下回る項目も見られる。以下、その一覧を示す。

表 3 轍小学校・轍中学校における

「全国学力・学習状況調査（児童生徒質問紙調査）」結果のうち全国平均を下回った項目

	小学 6 年 (%)			中学 3 年 (%)		
	轍小	歌里亜市	全国	轍中	歌里亜市	全国
国語の勉強は好きだ	60.1	62.8	63.0	55.8	57.9	58.6
読書は好きだ	69.9	71.5	72.6	65.4	69.0	69.7
算数・数学の勉強は好きだ	63.7	64.0	64.9	50.1	51.7	52.1
算数・数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える	65.2	66.1	66.1	34.0	35.2	36.5
理科の勉強は好きだ	75.6	80.4	81.5	56.2	59.9	61.6
家で自分で計画を立てて勉強している	52.0	55.2	58.0	38.5	42.6	42.9
ものごと最後までやり遂げてうれしかったことがある	90.0	93.7	94.5	85.9	92.1	93.2
将来の夢や希望を持っている	81.3	85.3	86.7	68.7	72.7	73.2
近所の人に会ったときはあいさつをしている	85.4	88.5	91.1	80.6	84.6	87.3
今住んでいる地域の行事に参加している	59.2	62.4	63.2	34.2	36.9	37.7

（２）歌里亜市教育委員会からの通知への対応に追われる轍中学校

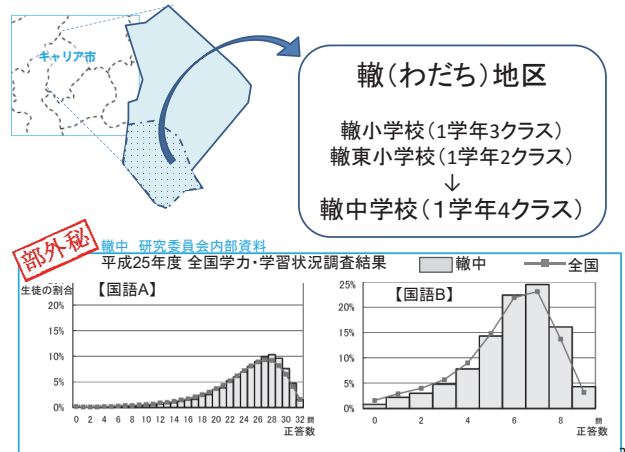
○ 歌里亜市教育委員会通知（平成 26 年 7 月 16 日付）

- ・ ……各校におかれましては、キャリア教育の全体計画及び各学年の年間指導計画の作成に特段のご配慮を賜り、下記の通り、12 月 9 日に実施予定の市立小学校・中学校合同キャリア教育研修会にご持参下さいますようお願い申し上げます。

秋学期のミッション

かりあ わだち
X県 歌里亜市立 轍 中学校
2年生の「キャリア教育年間指導計画」を作成する

キャリア教育特講



成績はおおむね良い 轍地区の子どもたちだが.....

- 質問紙調査の結果、全国平均を下回った主な項目 部外秘

	小学6年(%)			中学3年(%)		
	轍小	歌里亜市	全国	轍中	歌里亜市	全国
国語の勉強は好きだ	60.1	62.8	63.0	55.8	57.9	58.6
読書は好きだ	69.9	71.5	72.6	65.4	69.0	69.7
算数・数学の勉強は好きだ	63.7	64.0	64.9	50.1	51.7	52.1
算数・数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える	65.2	66.1	66.1	34.0	35.2	36.5
理科の勉強は好きだ	75.6	80.4	81.5	56.2	59.9	61.6
家で自分で計画を立てて勉強している	52.0	55.2	58.0	38.5	42.6	42.9
ものごと最後までやり遂げてうれしかったことがある	90.0	93.7	94.5	85.9	92.1	93.2
将来の夢や希望を持っている	81.3	85.3	86.7	68.7	72.7	73.2
近所の人と会ったときはあいさつをしている	85.4	88.5	91.1	80.6	84.6	87.3
今住んでいる地域の行事に参加している	59.2	62.4	63.2	34.2	36.9	37.7

歌里亜市 轍地区の特質

- 歌里亜市
 - 平成17(2005)年、八馬間(やまあい)町、歌里亜市、轍町の一市二町合併によって成立
 - JRが市を東西に横断し、駅は旧歌里亜市内に2駅
 - 人口はおおよそ65,000人
- 轍地区(旧:轍町)
 - 昭和50年代後半の工業団地誘致成功を機に、大規模な農地転換と雑木林の伐採を図った
 - いわゆる「旧住民」は地区人口の1/5ほど
 - 地区内の工業団地に勤務する住民、地区北部のショッピングセンターに勤務する住民、南に隣接する外開(とかい)市内の企業に勤める住民が多く見られる

いつか来ると恐れていた通知が.....

- 歌里亜市教育委員会通知(平成26年7月16日付)
 -各校におかれましては、キャリア教育の全体計画及び各学年の年間指導計画の作成に特段のご配慮を賜り、下記の通り、12月9日に実施予定の市立小学校・中学校合同キャリア教育研修会にご持参下さいようお願い申し上げます。
- 対応に追われる轍中
 - 轍中では、市の方針に沿って3日間の職場体験(2年生11月)を実施している(市内40事業所)。学活・総合を中心としたいわゆる従来型の進路指導の全体計画・年間指導計画を、ほぼそのままの形で「キャリア教育の全体計画・年間指導計画」として運用してきた。しかし、教科との関係についての記載は皆無の状態。
 - 市内の全教員で組織する各教科等の「研究部」のうち、轍中は「キャリア教育研究部」幹事校(=校長は研究部長)のため、学活・総合についても抜本的な手直しは必須となる模様。

校長からの緊急指令

- 7月~9月:教務委員会で下案準備(各教科等のWGで下案作成)
- 10月~11月:週に1度、各学年会で検討
- 12月:提出に向けて最終調整
- 教務委員会 各教科等WG責任者
 - 国語: 鄭一章教諭
 - 社会: 得居千照教諭、米田陸王教諭
 - 数学: 村田翔吾教諭
 - 理科: 栗原和弘教諭、野福剛教諭
 - 音楽: 川端舞教諭
 - 美術: 小宅優美教諭
 - 保健体育: 本田辰雄教諭
 - 技術・家庭: 小山田建太教諭
 - 外国語(英語): 岡安翔平教諭
 - 道徳: 川上若奈教諭
 - 総合的な学習の時間: 神田あずさ教諭、張羽希教諭
 - 特別活動: 高野貴大教諭

校長からの緊急指令

- 国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術・家庭、外国語(英語)
 - 教科書は最もシェアの大きい教科書会社発行のものとする
 - キャリア教育の機会として最もふさわしい単元を1~3選定
 - 当該単元の指導計画(全体構想)の案を作成
 - 当該単元中、キャリア教育の機会として最もふさわしい時間(1コマ)の指導案(素案)を作成
- 道徳、総合的な学習の時間、特別活動
 - キャリア教育としてふさわしい年間指導計画(素案)を作成
 - 道徳、総合的な学習の時間、特別活動の年間指導計画ではないことに注意
 - そのうちキャリア教育のハイライトとなる題材・主題等を1~3選定し、当該題材等の指導案(素案)を作成

本来であれば...

- 轍中の生徒の弱み・強み(現状把握)
- 轍中としてのキャリア教育目標(身に付けさせたい力)
- 2年生で身に付けさせたい力(学年目標)
- ↓
- これらが確定していないと、各教科等の指導計画はつくれないはず。
- ↓
- 今回は、「10月~11月に週に1度(水曜日:10時10分~)開かれる各学年会」で検討しながら、作っていく。

○ 対応に追われる轍中

- 轍中では、市の方針に沿って3日間の職場体験（2年生11月）を実施している（市内40事業所）。学級活動・総合的な学習の時間を中心としたいわゆる従来型の進路指導の全体計画・年間指導計画を、ほぼそのままの形で「キャリア教育の全体計画・年間指導計画」として運用してきた。しかし、教科との関係についての記載は皆無の状態。
- 市内の全教員で組織する各教科等の「研究部」のうち、轍中は「キャリア教育研究部」幹事校（＝校長は当該研究部長）のため、学級活動・総合的な学習の時間についても抜本的な手直しは必須となる模様。

(3) 轍中学校におけるキャリア教育の目標（身につけさせたい力）の設定

このように設定された「歌里亜市立轍中学校」では、毎週1回、第2年学年会が開催され（＝実際には「キャリア教育学特講」授業の実施）、各教科担当者会（ワーキンググループ）によって作成されたキャリア教育の授業提案（指導案）の検討がなされた。毎回3～4提案に検討が加えられ、同時に、歌里亜市・轍地区の実情や、轍中学校の生徒の実態の解釈にも具体的な輪郭が付与されていった。これらを踏まえ、轍中学校としてのキャリア教育の目標と、2年生の学年目標も徐々に確定されたのである。

以下に示すのが、12月9日に確定された「轍中キャリア教育の目標」である。

平成26年12月9日

(*実際には2015年12月9日作成)

轍中キャリア教育目標について

1. 本校の現状把握 <弱み・強み>

1.1 本校の弱み

1.1.1 地域に対する効力感の低さ

・ 質問紙調査結果によると…

- 「近所の人に会ったときはあいさつをしている」

全国平均：87.3% 轍中3年：80.6%

- 「今住んでいる地域の行事に参加している」

全国平均：37.7% 轍中3年：34.2%

・ 轍地区住民の状況を参照すると…

◎ 地区内の工業団地に勤務する住民

◎ 地区北部のショッピングセンターに勤務する住民

◎ 南に隣接する外開（とかい）市内の企業に勤める住民

かつ、いわゆる「旧住民」は地区人口の1/5ほど

これらの調査結果及び住民状況を踏まえるならば、轍地区には多様な人々が在住しており、それが原因となって、生徒と地域とのつながりが希薄化していることが推察される。

本校の生徒には、地域に対する自らの効力感が低く、肯定的な認識や愛着にも弱さが見られる。

1.1.2 学習内容と自分の将来との乖離

・ 質問紙調査結果によると…

- 「算数・数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える」

全国平均：36.5% 轍中3年：34.0%

- 「将来の夢や希望を持っている」

全国平均：73.2% 轍中3年：68.7%

地域住民の勤務先が多様であり、新しさの中に、旧さもある地域

これらの調査結果を踏まえるならば、生徒の成績や学習態度はおおむね良好であるものの、自身の将来像を描いたり、学習内容を生活の中で活用したりする力が低いことが推察される。

本校の生徒には、学習内容を自分の将来と結びつけることが十分にできていないという弱さがあると言える。

1.1.3 継続して物事に取り組む力の弱さ

・質問紙調査結果によると…

- 「ものごと最後までやり遂げてうれしかったことがある」

全国平均：93.2% 轍中3年：85.9%（←小学校データ 全国平均：94.5% 轍小：90.0%）

ここから、継続して何かに取り組む経験や集中力を持続させる力の不足が読み取れる。

1.2 本校の強み

一般的に、物事の長所及び短所の関係は、表裏一体である。それゆえ、本校の生徒の強みは、弱みに対応して把握することができる。

1.2.1 授業にはまじめに取り組む、生徒間関係も教師との関係も安定的

1.2.2 多様な学習機会の可能性

1.1.1において、地域住民の多様性に起因する「地域に対する効力感の低さ」が、本校の生徒の弱みであると把握した。しかしながら、地域住民が多様であるということは、裏を返せば、多様な学習機会が存在しているということである。例えば、教科活動において、地域に飛び出し実験・観察を行うことや、教科外活動において、地域住民を巻き込み様々な職業の人からの話を聞くことが想定できる。

このように、本校には、地域住民の多様性ゆえに、多様な学習機会が存在している。

1.2.3 キャリア教育環境の整備

1.1.2において、生徒の成績や学習態度はおおむね良好なものの、「学習内容と自分の将来との乖離」が、本校の生徒の弱みであると把握した。しかしながら、生徒の成績や学習態度がおおむね良好であるということは、新たな発想に基づく取組に対する保護者等からの理解が得やすいことを意味する。

生徒指導上対応すべき問題が少ない本校では、キャリア教育を実施するための良好な環境が既に整備されている。

以上の現状把握を踏まえ、本校全体のキャリア教育の目標及び2年生の目標を次のように定めた。

2. 本校におけるキャリア教育の目標（身につけさせたい力）

- ・学校での学習を日常生活や将来の生活の中で活かそうとし、可能な限り活かすことができる。
- ・将来進むべき方向性についての自分なりの考えをもち、それに基づき、卒業直後の進路を決定することができる。
- ・しなくてはならないこと、すべきことには進んで取り組み、それをやり遂げることができる。
- ・歌里亜市、とりわけ轍地区の良さや課題を理解し、地域の行事等に積極的に参加することができる。

3. 2年生のキャリア教育の目標（身につけさせたい力）

- ・学校での学習が生活の中で活かされていることについて関心を持ち、可能な範囲で活かすことができる。
- ・自らの将来について関心を持ち、多様な選択肢や果たすべき役割があることが理解できる
- ・しなくてはならないこと、すべきことの判断を適切にすることができ、それらに計画的・継続的に取り組むことができる。
- ・歌里亜市、とりわけ轍地区で働いている人々の現状を理解し、職場体験活動等の社会的な活動に積極的に取り組むことができる。

以下、10回に及ぶ「学年会」を経て検討され確定した「平成27年度 歌里亜市立轍中学校第2学年 キャリア教育年間指導計画」、及び、当該計画に基づいて実践された各教科等における指導案を掲げる。

（人間系 教育学域 藤田 晃之）

平成 27 年度 歌里亜市立轍中学校第 2 学年 キャリア教育年間指導計画

◎第 2 学年のキャリア教育の目標（身につけさせたい力）

- 学校での学習が生活の中で活かされていることについて関心を持ち、可能な範囲で活かすことができる。
- 自らの将来について関心を持ち、多様な選択肢や果たすべき役割があることが理解できる

		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
教科	国語 社会 数学 理科 音楽 美術 保健体育 技術・家庭 外国語			【外国語】Career Day キャリア教育の一環である職場体験活動を題材とする単元のため、本単元を丁寧に実施するだけでキャリア教育としての教育効果を発揮することが期待できる。本実践では、教科書の内容のみの指導にとどまらず、それに工夫を加えた指導を行う。具体的には、自分の将来について考える機会の設定、自分の将来就きたい職業を伝えあう活動の付加などである。	【音楽】混声合唱へのステップ―「ふるさと」 4 時間連続の授業を通して、一つの合唱曲を完成させるためにどのような計画で練習していけばいいのかを考えさせる。物事に計画的に取り組む経験を生徒にさせることで、物事に計画的に取り組むことの大切さに気づかせ、それを合唱祭の練習や、今後の生活に活かせるような指導を行う。		【数学】一次関数 座標平面→ダイアグラムを描くことを通して、現実の世界の事象を数学的に解釈し、一次関数が生活の中で活かされていることを知り、実際に活かせるようにする。 (11 月の校外学習で佐渡島を実際に訪れる際、予想した時刻にデッキに出て、ジェットフォイルの写真を本当に撮影できるのかどうかを確かめさせる。) 【国語】視点を定めて 伝えたいことを相手に分かりやすく伝えるため、話す内容を選び、調べたことを適切に構成し、表現する学習を体験させる。また、グループ発表を通して、他人と協力し合い、課題を解決する力や、コミュニケーション能力の向上を図る。「身近な人へのインタビュー」の成果報告として位置づける。
	道徳				集団生活の向上、役割、責任 係・委員会活動の振り返り		
総合的な学習の時間		地域の中のグローバルを探そう 身近な地域でのグローバル化について自ら課題を設定し、その課題について、情報を収集し、主体的に解決しようとするにより、「課題対応」の向上を図り、グループ学習を行うことにより他者の意見を理解する力やコミュニケーション・スキルの向上を目指す。		地域の職業調べ 地域の産業の特徴、実生活との関連	職場体験先を決めよう 働くってどんなこと？～職業模擬体験～(地域の職業人を招いて)	インタビュー 身近な人への	職場体験活動に向けての
特別活動	学校行事	新入生歓迎会 部活動集会		体育祭			
	学級活動	2 年生になって係・委員会の決定 学級目標づくり	学級・学校への貢献(前期分) 「集団」の一員であることの意識 これからの学校行事に向けて	体育祭のふり返り	性について		合唱祭に向けて

- しなくてはならないこと、すべきことの判断を適切にすることができ、それらに計画的・継続的に取り組むことができる。
- 歌里亜市、とりわけ轍地区で働いている人々の現状を理解し、職場体験活動等の社会的な活動に積極的に取り組むことができる。

10月	11月	12月	1月	2月	3月
<p>【社会】東北地方一伝統的な生活や文化を守り育てる人々の暮らし 先人の暮らしぶりが現在の生活にも影響を及ぼしていることを認識させ、自分達の生活がこれからの将来の在り方に深く関わっていることに気付かせる。その際、自分ほどのような選択を行い、これからの生活を営んでいくのか意識させる。</p>	<p>【技術・家庭科(家庭分野)】生活を豊かにするために 製作活動を通して、継続して物事を成し遂げる力を育む。生徒たちが自分の生活に合わせた布製品を主体的に選んでいけることを重視し、楽しさや面白さを感じながら自分の力で作業していけることを目指す。</p>	<p>【保健体育】サッカー ゴール型のスポーツであるサッカーを通して、パスやドリブルでゴールするまでには複数の連係プレーによる動きと判断力が必要となることに気づかせ、集団技能を高める。周りの人と力を合わせる力、問題が起きたときに、どのようにしたらその問題が解決できるかを考える力の向上を図る。</p>	<p>【理科】電磁誘導と発電 学校での学習が生活の中で活かされていることに関心を持たせ、科学的な見方を日常生活や社会に活かせるようにする。さらに、理科での現在の学習が将来の職業や生活に結び付いていることに触れ、自らの将来について関心を持ち、多様な選択肢や果たすべき役割があることを理解させる。</p>	<p>【理科】空気中の水蒸気の変化 これまでの学習内容を活かして洗濯物が乾きやすくなる条件を考える。この授業を通して、第1に、学習内容を身の回りの事象・現象との関連で理解させ、学んだことが日常生活で役立てるようにしたい。第2に、洗濯物が乾きやすくなる条件に基づき家電メーカーが乾燥機を開発していることに言及することで、学習内容が科学技術やそれを生業とする職業においても有用であることを実感させる。</p>	
<p>【技術・家庭科(技術分野)】製作品の設計・製作 設計・製作を通して、継続して物事を成し遂げる力を育む。その際、希望する製作品を予め選択させ、各生徒がやりがいを見出しながら作業活動に臨めるよう工夫する。</p>			<p>【美術】こころふれあう場：公共空間をデザインしよう 地域内のショッピングセンターにある休憩コーナーをデザインを通して、多様な利用者のニーズに想像力を働かせ、生徒たちと休憩コーナーの利用者が、デザインされた場を通してつながることができるということを実感させる。</p>		
			<p>サン・テックス『星の王子様』、憧れと夢 「自らの将来について関心を持ち、多様な選択肢や果たすべき役割があることが理解できる」力の向上に寄与する展開とする。具体的には、パイロットと星の王子さまとの交流を描いた『星の王子さま』を読み、意見を交換し合う活動、作者・サン＝テックスについて、彼がなぜパイロットを目指したのかについて読み解く活動等を実践する。本主題の学びを、総合的な学習の時間における、「お仕事マッピング」につなげる。</p>		<p>集団生活の向上、役割、責任 係・委員会活動の振り返り</p>
<p>準備をしよう</p>	<p>職場体験活動(三日間) 職場体験報告書作成</p>	<p>職場体験報告書作成 職場体験活動発表会</p>	<p>お仕事マッピング 職業に関するマインドマップの作成</p>		
<p>合唱祭</p>	<p>校外学習(佐渡)</p>				<p>卒業生を送る会</p>
<p>合唱祭の振り返り(11月)</p> <p>学級集団の中での自身の位置づけや役割を考えさせ、進路選択や進路計画を考える際の自己理解へとないでいく。今後の2年生の特別活動や3年生に進級してからの指導において自身のキャリアについて見つめられる力の向上を図る指導の一環として位置づける。</p>	<p>学級・学校への貢献(後期分) 一皮むける経験</p>	<p>私の適性大発見</p>	<p>進路計画を立て、話し合おう</p>	<p>将来の進路を考えてみよう</p>	<p>3年生に向けて</p>

国語科指導案

轍中学校 教諭 鄭 一葦

〔轍中学校2年生 国語科におけるキャリア教育〕

キャリア教育は、言語活動の充実、それを通して育成する「生きる力」と深く関わっている。ここで言っている言語活動は各教科等において充実することが求められているが、特に言語に関する能力育成の中核を担う教科とした国語科では、言語活動の効果が期待されるだろう。

中学校の国語科では、言語の教育としての立場を重視し、「伝え合う力の育成」「思考力・想像力の育成」「言語感覚を豊かにすること」「国語を尊重する態度の育成」を教科目標として、3年間を通じた系統的な指導を行う。国語科の指導内容には、キャリア教育で育成する基礎的・汎用的能力としての「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」といった、主要能力との関連も含まれている。そして、国語科の目標を実現することによって身につく総合的な言語能力は、「人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見いだしていく連なりや積み重ね」において、重要な役割を果たすことになる。その意味で、国語科の指導は、生徒がキャリアを形成していくために必要な能力や態度を育成するための基盤を身に付けさせることでもあり、教科指導に当たっては、キャリア教育との関連を確認し、生徒の発達の段階に応じた指導を行うことがキャリア教育の推進にもつながる。

国語は、各教科等の学習の基本ともなる国語の能力を身に付けることを重視しながら、実生活で生きて働くための必要な能力も、言語活動を通して育成している。その言語活動例が「A話すこと・聞くこと」「B書くこと」「C読むこと」の内容に明示されていて、特に、「A話すこと・聞くこと」の指導内容については、キャリア教育に関連する主な目標・内容とも関連が深く、国語科を通してキャリア教育を実践する上でのポイントになると考えられる。キャリア発達にかかわる基礎的・汎用的能力の一つである「人間関係形成・社会形成能力」は、多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聞いて自分の考えを正確に伝えることができる力である。さらに、自分のおかれている状況を受け止め、役割を果たしつつ、他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力でもある。つまり、相手の立場や考えを尊重し合うことのできる能力を基本としている。したがって、「人間関係形成・社会形成能力」の育成は、実際に話したり聞いたりする音声言語活動を重視することが大切だ。学習指導要領の「A話すこと・聞くこと」に関する各学年の目標では、冒頭部分に「目的や場面に応じ」と示されている。常に目的意識や場面意識をもって「話す」「聞く」ことにより、生徒は目的や場面の状況を踏まえ、相手に応じて生き生きと話したり、聞いたり、話し合ったりすることができる能力と、豊かな人間関係を築いていくことのできる能力を身に付けられることが考えられるだろう。

以上のことに基づいて、今回は「視点を定めて」という単元を選定した。学級活動と特別活動の年間指導計画によって、夏休み中、生徒が地域の職業を調べ、身近な人へインタビューしてきたと想定される。成果の報告として、グループに分けて職業紹介のプレゼンテーションをしてもらう。一人一人が調べてきた職業がそれぞれ違っている可能性もあり、似ている可能性もある。グループごとに発表してもらうため、一つの職業の多方面から紹介するか、あるいは二、三種類の職業を紹介するか、のような課題は生徒に任せる。グループメンバーたちの相談で課題と分担を決め、印象に残るプレゼンテーションをするように工夫して、ついでにコミュニケーション能力も向上できると考えられる。

1. 授業実践の日時：平成27年9月9日（水曜日） 2時限
2. 学級：轍中学校2年4組32名（男子16名、女子16名）
3. 教科書：光村図書「国語 2」
4. 単元名：「視点を定めて」

5. 単元の目標・ねらい

（1）本単元の目標・ねらい

- ①社会生活の中から話題を決め、話したり話し合ったりするための材料を多様な方法で集め整理すること。
- ②異なる立場や考えを想定して自分の考えをまとめ、話の中心的部分と付加的な部分などに注意し、論理的な構成や展開を考えて話すこと。
- ③目的や状況に応じて、資料や機器などを効果的に活用して話すこと。
- ④話の論理的な構成や展開などに注意して聞き、自分の考えと比較すること。

（2）本単元とキャリア教育との接点

- ①本単元は話すこと・聞くことの言語活動を中心とした単元で、伝えたいことを相手に分かりやすく伝えるためには、自ら話す内容を選び、調べたことを適切に構成し、表現する学習を体験させていくことができる。生徒がしなくてはならないこと、すべきことの判断を適切にすることができ、それらに計画的に取り組むことができる。
- ②最初の五時間でテキストを勉強した後、学んだ知識を運用しグループで発表してもらうため、他人と協力し合い、課題を解決することが求められる。生徒が意見が合わないような事態が起こる時とる行動を通じて、コミュニケーション能力を向上させることもできる。
- ③今回の活動は夏休み中に行われていた職業調査の成果報告として位置づけられるため、生徒が自らの将来について関心を持ち、多様な選択肢や果たすべき役割があることが理解できると考えられる。さらに、歌里亜市、とりわけ轍地区で働いている人々の現状を理解し、職場体験活動等の社会的な活動に積極的に取り組むこともできる。

6. 単元全体の指導計画

時間数	主題	主な学習内容
5時間	「やさしい日本語」	①テキストを通読し、文章の構成を捉え、内容を理解する。 ②文章中の例示や図表の効果を確認する。 ③筆者の主張を参考に、人に情報を伝えるときに大切なことについて考え、話し合う。
1時間 (本時)	発表資料を工夫しよう	①教科書を用いて工夫の仕方を説明し、聞き手にとってわかりやすい発表や説明のためには、どのような工夫が考えられるか考えさせる。 ②グループを分け課題を与える。
5時間	印象に残る説明をしよう	①発表するテーマを決める。 ②グループの話し合いに進んで参加し、資料や機器を活用し、グラフや図表などを効果的に用いて、聞き手を意識した資料を作成する。 ③聞き手の情報を踏まえ、資料や機器を効果的に活用して、論理的に分かりやすく説明する。 ④聞き手として、説得力を増すための話の構成や話し方に注意し、質問を考えながら聞く。

7. 本時の指導

(1) 本時の目標・ねらい

- ①相手や目的に応じて、自分なりに工夫して、発表資料を作る。 (関心・意欲・態度)
- ②聞き手にとってわかりやすい発表や説明のためには、どのような工夫が考えられるか考えさせる。 (知識・理解)
- ③話し言葉と書き言葉の違いを踏まえ、適切な言葉遣いで資料を作成する。 (知識・理解)

(2) 展開

時間	学習過程	学習内容と活動	指導上の留意点
3分	導入	・夏休み中行われてインタビューのことを思い出させ、「やさしい日本語で成果を発表してみませんか」と勧誘。	
25分	内容理解①	・わかりやすい資料というのはどんな資料なのかを考えさせ、教科書の発表資料1、2とグラフ1、2を比較させる。 ・それぞれの資料から受ける印象の違いやその理由について考えさせる。 ・教科書の学校紹介文を参考に、発表資料の下書きを作成する。「上達のポイント」を参考にする) ・下書きができたなら、隣の人とお互いに見せ合うことを指示する。 ・話し言葉と書き言葉の違いについて触れる。	・生徒たちの様子を見て回る。 ・隣の人がない場合、三人、四人で小グループを作っても構わない。
12分	内容理解②	・次回からの職業紹介プレゼンテーションの準備をしてもらうことを説明し、グループを分ける。 ・一つのグループに一つの職業を紹介してもらう。そして、一文字の漢字で職業を形容し、発表の主題として最初あるいは最後で提示することを指示する。 ・どんなプレゼンテーションが求められているかを説明しながら、自分の職業である教師を例として、学生に紹介する。 ※選んだ漢字は「育」である。	・職業の特徴をまとめた漢字でもいいし、職業を調べた後グループの感想を表した漢字でもいい。 ・たとえば、自分の出勤時間、仕事内容、あるいはどんな努力をして教師になれたかなどを紹介する。
10分	グループワーク	・これからの発表についてグループで話し合わせる。 ・紹介する職業、グループメンバーそれぞれの担当を決める。 ・次回から発表資料を準備し始めると指示する。	・生徒たちのグループワークを見て回る。 ・うまくいっていないグループに助言する。

8. 本時の評価について

- (1) 相手や目的に応じて、工夫して発表資料を作ろうとしているかどうか。
- (2) グラフや図表などを効果的に用いて、聞き手を意識した資料を作成しているかどうか。
- (3) 話し言葉と書き言葉の違いを踏まえ、適切な言葉遣いで資料を作成しているかどうか。

【追録】指導案作成者から読者の皆様へ—キャリア教育の視点から特に工夫したこと—

外国人であるため、日本の学校教育に関してそんなに詳しくなくて、自分が勝手に思い込んだものを書いたかもしれないことについて、まずお詫びしたい。今回はキャリア教育の視点から、特に考慮したところは二か所あった。一つ目は、ほかの科目との連携である。授業での発表を通じて、特別活動や学級活動が「活動」だけではなく、ほかの教科学習、あるいは生活の中で使える知識と能力が得られるイベントだということを生徒に理解してほしい。二つ目は、発表の内容である。これはほかの院生から、「国語的な内容ではない」というような指摘をいただいたが、それでも職業の紹介がやりたいと思っている。ほかの院生からいただいた提案、たとえば新学期の望み/まとめなどと比べると、職業の紹介は個人感情など含まれていないため、グループでの話がよく進むと思う。それに、この発表は生徒の論理的に話したり、質問を考えながら聞いたりする能力を育てるだけではなく、客観的に事実が述べられるから、ある意味で情報提供にもなっているため、授業が終わっても生徒の頭の中に何か残ることができると思う。「国語の授業」だと認めてもらいたいため、個人的に思う国語的な要素として、「一つの漢字で発表の主題をまとめる」ということを考えた。これを加えたことで、さらに漢字に親しむこともでき、より良い言語活動になれると思う。

(人間総合研究科博士前期課程 教育学専攻 1年 鄭 一葦)

【文献】

- ・ 文部科学省 (2011) 『中学校キャリア教育の手引き』教育出版
- ・ 文部科学省 (2011) 『高等学校キャリア教育の手引き』教育出版

社会科指導案

轍中学校 教諭 米田 陸王・得居 千照

[轍中学校 2 年生 社会科におけるキャリア教育]

小学校・中学校社会科の目標に共通するのは、「公民的資質の育成を養う」という部分である。「公民的資質」とは、「市民・国民として行動する上で必要とされる資質(小学校学習指導要領解説社会編)」とし、「よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を含むもの」と記されている。これは社会科の学習が知識・理解の習得にとどまらず、児童・生徒が自ら課題解決を図りながら学習に取り組むことを通して、社会に対する関心を高め、社会を形成する人間として望ましい態度を身に付けることが重要であることを表している。特に中学校社会科は、小学校社会科と高等学校地理歴史科・公民科との中間点に位置し、橋渡しをする意味で重要な役割を果たしている。

このことから、轍中学校 2 年生の社会科では、小学校で学習した過去内容から高等学校で学習するであろう未来への学習の橋渡しを意識したキャリア教育実践を行っていきたいと考える。

また、先を見据えたことでもあるが、高等学校地理歴史科・公民科では、「中学校社会科での学習を踏まえ、各教科の特質と相互の関連を考慮しながら(高等学校学習指導要領改訂の趣旨)」とあるように、「縦」の連携を踏まえた学習に取り組むことの重要性が示されている。地理歴史科においては「日本国民として必要な自覚と資質を養う」、公民科では「国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質を養う」ことを目標としている。特に、公民科では「公民的な資質」を「豊かな社会生活を築こうとする自主的な精神」、「人間としての在り方生き方についての自覚」等と捉え、小・中学校の目標である「公民的資質の基礎」との関連を図っている。

以上のことから、小・中学校の社会科や高等学校の地理歴史科・公民科で目指すところは公民的資質を育てることであり、「生徒が『生きる力』を身に付け、激しく変化する社会の中で、それぞれが直面するであろう様々な問題に柔軟にかつたくましく対応し、社会人・職業人として自立していくことができるようにする」といったキャリア教育のねらいと深く結び付くことになる⁴⁾

この点で、社会科は他教科に比べ、キャリア教育との関連が深い教科であるといえる。⁵⁾

⁴⁾ 文部科学省 (2011) 『中学校キャリア教育の手引き』教育出版 p.147

⁵⁾ 米田陸王 (2016) 『中学校における職場体験活動と社会科教育との連携に関する研究―事前指導と事後指導に焦点を当てて―』筑波大学大学院教育研究科修士論文 (未公刊) p.81

1. 授業実践の日時：平成27年10月9日（金曜日）3時限
2. 学級：轍中学校2年2組32名（男子16名、女子16名）
3. 教科書：東京書籍、平成24-27年度用「新しい社会〔地理〕」
4. 単元名：「東北地方―伝統的な生活や文化を守り育てる人々の暮らし―」

5. 単元の目標・ねらい

（1）本単元の目標・ねらい

本単元では、第3章・日本の諸地域の中から第6節・東北地方について取り扱う。その理由は、東北地方の伝統的な生活や文化を守りながら生活し、継承している人達の暮らしを知ることにより、郷土への愛着が芽生え、日本各地への興味・関心を高めることが求められる。特に、東北地方では東北三大祭りやいぶりがっこなどの食文化、江戸時代から今も現存される建物や町並みが見られることから、生徒がこれからの生活の中で東北地方を訪れた際に、学校での学習を意識する機会となることが予測されるためである。さらに、地域の伝統的な生活・文化に関する特色ある事象を中核として、それを自然環境や歴史的背景、他地域との交流などと関連付け、近年の都市化や国際化によって地域の伝統的な生活・文化が変容していることなどについて考えるのではないだろうか。

（2）本単元とキャリア教育との接点

先人の暮らしぶりが現在の生活にも影響を及ぼしていることを知り、自分達の生活がこれからの将来の在り方に深く関わっていることに気付く。その時、自分はどうのような選択を行い、これからの生活を営んでいくのか。本単元には、今の生活が未来に繋がることを意識させる視点が含まれているといえる。

本単元の「キャリア教育の宝」は気候、農業、伝統工芸、工芸、地域の行事、街並みの6つに区分することができる。と考える。

以下、6つの特徴と生徒への働きかけについて説明する。

気候では、東北地方の東北の気候は、奥羽山脈という南北に長く伸びた山脈を境にし、季節風のため、日本海側と太平洋側とで気候がちがう。生徒には、東北地方の気候について、太平洋側と日本海側の違いを、資料等を使って意識させたい。

農業では、東北では、日本海側・太平洋側の両側とも米作りがさかんである。冬は積雪のため、田での農業がむずかしく、そのため米は単作である。おもに平野で米作りがさかんだが、東北の場合、盆地でも米作りをする場合も多い。銘柄米も種類が多く、秋田県の銘柄米の「あきたこまち」や、山形県の「はえぬき」、宮城県や岩手県の「ひとめぼれ」が有名。生徒には、普段自分たちが目にし、食している「米」がどのような場所で生産されているのか。また、「米」以外にも、東北地方は、さくらんぼやももなど日本全国の有数生産量を誇っていることを捉えさせたい。

伝統工芸では、南部鉄器が岩手県盛岡市や奥州市などさかん。会津塗りは、福島県の会津市や喜多方市。宮城県のこけし。秋田産の杉を利用した、秋田県大館市の曲げわっぱなど。昔は冬のあいだ、農作業ができなかったので、家内工業として、伝統工業が発達してきた。生徒には、なぜ東北地方において伝統工芸が盛んになったかを考えさせたい。

工業では、高度経済成長期ごろから、高速道路の東北自動車道ぞいには工場が進出しており、IC（集積回路）工場や、電子機械の工場、精密機械などの工場が進出しており、この地帯はシリコンロードと言われる。土地の価格が安くて広く、空気や水がきれいなので、これらの工場が進出した。生徒には、新しい産業が、高速道路など交通網の整備とともに発達していることをとらえさせる。

地域の行事では、東北三大祭りとして、青森のねぶた祭り、秋田の竿燈まつり、宮城県の仙台市の七夕がある。これに、山形県の花笠や、秋田で大晦日に行う「なまはげ」を加えて四大祭りや五大祭りという場合もある。生徒には、東北三大祭りがなぜ行われるようになったのかを考えさせる。

街並みでは、仙台は、江戸時代には、伊達氏の治める城下町だった。仙台市は、自然を尊重した町

づくりをしており、仙台市みずからを「杜の都」としている。生徒には、地方中枢都市の仙台市で新しい文化が形成されていることを、他地域との結び付きに着目してとらえる。

以上から、東北地方は生徒が自分たちの学びと生活を照らし合わせるために必要な材料が揃っており、また、生徒の興味関心を想起させるのに適当な「キャリア教育の宝」が眠っている単元である。特に、指導の際は、生徒に自分たちの住んでいる地域と東北地方のちがいを比較検討させることにより、生徒の考える力を磨いていきたい。

6. 単元全体の指導計画

	主な学習内容	学習目標
1	東北地方をながめて① 東北地方の生活の舞台 (pp. 220-211) 三つの山地がつくる地形 東と西で異なる気候	東北地方の地形の特色を、三つの山地に着目してとらえる。 東北地方の気候について、太平洋側と日本海側の違いを、資料を使ってとらえる。
2	東北地方をながめて② 東北地方の人々の営み (pp. 212-213) 都市に集中する人口 各地で行われるさまざまな産業	東北地方の人口分布と産業の特色をとらえる。 これまでの学習を踏まえて、追究テーマに対する仮説を立てる。
3 (本時)	伝統的な生活や文化を守り育てる人々の暮らし① 伝統的な生活や文化を守る (pp. 214-215) 伝統的な生活と文化 城下町・角館 気候に応じた食文化	東北地方の伝統的な生活や文化を、自然環境や歴史的背景、産業と関連付けてとらえる。 伝統的な祭りや食文化、歴史的な町並みとその保存について関心を持つ。
4	伝統的な生活や文化を守り育てる人々の暮らし② 伝統産業と新しい産業 (pp. 216-217) 東北地方の伝統産業 世界に広がる南部鉄器 新しい産業の発達	東北地方の伝統的な産業が発達した理由と、国際化などによる変容をとらえる。 新しい産業が、高速道路など交通網の整備とともに発達していることをとらえる。
5	伝統的な生活や文化を守り育てる人々の暮らし③ 新しい文化の形成と地域の変化 (pp. 218-219) 地域をもり上げるプロスポーツ 結びつきによる地域の変化 東北地方の学習をふり返って	地方中枢都市の仙台市で新しい文化が形成されていることを、他地域との結び付きに着目してとらえる。 東北地方の伝統的な生活や文化とその変容について、まとめる。

出典：東京書籍平成 24-27 年度用中学校指導計画作成資料「新しい社会 [地理]」

<http://ten.tokyo-shoseki.co.jp/downloadfr1/pdf/jsc89971.pdf> (最終閲覧日：2016/03/30) に基づき米田・得居が作成

7. 本時の指導

(1) 本時の目標・ねらい

- 東北地方の伝統産業と新しい産業を比較して、国際化に着目し、それぞれの特色や課題をとらえることができる。
- 東北地方の工業が、東京への交通の便利な地域を中心に伸びていることを、地図やグラフなどから読み取ることができる。

(2) 展開

時間	学習内容	生徒の活動	指導上の留意点
導入 10分	日本各地のおもな祭りに関するクイズ 例) さっぽろ雪まつり、阿波おどり、祇園祭、鶴岡八幡宮例大祭、ハロウィン	黒板に掲示された写真からどこの地域のお祭りかを推測し、当てる。	お祭りの特徴がよく分かる写真を拡大印刷し、黒板に掲示する。
展開 30分	東北三大祭り(ねぶた、竿燈まつり、仙台七夕まつり)が東北地方で行われている祭りであることを知る。 ○お祭りはなんのためにやるのだろうか →米の豊作や農産物の病害虫を防ぐ願いが農家の行事の起源となっていることを知る。 角館の町並みの写真の特徴に気付く 例) 大通り、昔ながらの町並み、屋敷 ○角館の道路はどうして広いのだろうか →「火除け」や敵から攻め込まれないために見通しをよくするため、また、武家屋敷が並んでいることを知る。 いぶりがっこをみて、どのように作られているのか推測する。 例) 燻製、干されている ○いぶりがっこはなんのために作られているのか →保存食のために作られていることを知る。	東北三大祭りの写真を一度に掲示し、どこの地域で行われているかを推測する。 教員の発問を隣の人と話し合い、考える。 数人の生徒は発言を行い、クラスに共有する。 写真を見ながら、特徴に気付く。 教員の発問を隣の人と話し合い、考える。 生徒はいぶりがっこを実際に食し、食べたことのない触感を味わう。 教員の発問を隣の人と話し合い、考える。	東北三大祭りの写真を一度に掲示する。 何人かの生徒に自らの考えを発言させ、クラスで共有する。 歴史分野の弥生時代の祭との関連性を意識させる。 角館の町並みの写真を掲示する。 何人かの生徒に考えを述べてもらい、クラスで共有する。 歴史分野の江戸時代の学習で学ぶことを意識させる。 いぶりがっこを用意し、数人の生徒に食してもらおう。 何人かの生徒に考えを述べてもらい、クラスで共有する。
まとめ 10分	○東北地方には、どのような生活や文化が見られたか。また、それはどうして東北地方に根付いているのか。 例) 先人たちの生きていく知恵が根付いているから	教師の発問に対する自分なりの答えをワークシートに記入する。	

〔追録〕 指導案作成者から読者の皆様へ—キャリア教育の視点から特に工夫したこと—

筆者は、「学びと生活の乖離」という課題を解決する一つの切り口として、「“つながり”に気付かせるキャリア教育と社会科学習の在り方」を地理的分野から提案した。

実生活・実社会とのつながりや、人とのつながり、既習事項と学習内容とのつながりなど、様々なつながりに気付かせるような学習活動や展開の工夫を授業の中に意図的に取り入れた。

そのような授業を通して、生徒は「自分は何のために学ぶのか」といった「学ぶ意義」を実感することができるようになると思う。

本時において、生徒に対する発問や考えてもらう時間を多く取り入れた展開にした理由としては、先述の通り、先人の暮らしぶりが現在の生活にも影響を及ぼしていることを知り、自分達の生活がこれからの将来の在り方に深く関わっていることに気付かせるためである。

また、「お祭りはなんのためにやるのだろう」「角館の道路はどうして広いのだろう」といった発問に対して、「病害虫を防ぐ」や「日除け」といったオーソドックスな解答が生徒から出ると想定される。しかしながら本時では、特に「昔」と「今」のつながりを生徒に意識してもらうために「いつごろからこの祭りはあったのか」「この武家屋敷っていつの時代のものかな」などといった、時代や歴史とのつながり及び関連性を持たせる意味においても一歩踏み込んだ発問を行う。ここでの教員の働きかけが、生徒に「昔」と「今」はつながっており、先人の知恵が今にも影響を及ぼしていることを意識させる絶好の機会であると思う。

その結果、生徒は主体的に学ぼうとしたり、新たな課題を発見しようとしたり、様々な人と関わろうとしたりするようになると思う。

また、指導案を作成する上で注意しなくてはならないことは、教科の流れや体系的なものの中にキャリア教育の視点を入れるということである。キャリア教育を強く意識して指導案作成に向かうと、どうしても教科の流れに対して不自然な構成になってしまうことがある。あくまでも、教科での学習内容、構成の中でキャリア教育の視点を見出していくこと、この作業が求められる。

（ 修士課程教育研究科教科教育専攻 社会科教育コース 2年 米田 陸王
人間総合科学研究科博士前期課程 教育学専攻 1年 得居 千照 ）

数学科学習指導案

轍中学校 教諭 村田 翔吾

〔轍中学校 2 年生 数学科におけるキャリア教育〕

1 次関数、及び、図形の証明は、中学校数学科第 2 学年における中心的単元である。この 2 つの単元は、小学校の算数から中学校の数学へと進んだ生徒が会う大きな山である。実際、「何が関数であるかわからない」、「なぜ証明が必要かわからない」といった生徒の声は多く聞かれる。これらの数学教育上の課題を解決するために、キャリア教育の視点は、いかに寄与し得るのだろうか。

教科に対してキャリア教育の視点を導入する際には、教科内容の特性を考慮しなければならない。例えば、関数は、現実の世界の問題を解決するための道具である。一方で、証明は、事柄が正しいことを演繹的に導く方法である。このような教科内容の特性を考慮するならば、1 次関数は、生徒の身の周りの事象と関連づけて、学習されることが望ましい。

現実の世界と数学の世界とを結びつけるような数学学習を目指す動きは、近年活発である。例えば、中央教育審議会 初等中等教育分科会 教育課程部会の算数・数学ワーキンググループは、「算数・数学の学習プロセス（案）」⁶として、右の図を提案している（図 1）。この図では、日常生活や社会生活などにおける事象を数学の舞台に乗せる「数学化」と、数学の世界で導いた結果を現実の世界との関連で解釈する「活用・意味づけ」が、数学学習のプロセスとして明示されている。

この学習プロセスは、現実の世界における事象を数学の目でみようとしたり、見出した問題をよりよく解決したりする資質・能力の育成を目指したものであると捉えられる。

この学習プロセスを実現するためには、ある程度形式化された「数学的内容を教えるための問題」ではなく、生徒にとって切実性のある「生徒が解きたいと思う問題」を扱う必要がある。つまり、数学の教科書のみではなく、広く生徒の日常生活の中から、生徒にとって切実な問題を見出す必要がある。そのためには、他教科や教科外活動との連携といったキャリア教育の視点が欠かせない。したがって、キャリア教育の視点は、「現実の世界を数学の目でみること」において、数学教育に対する補完的役割を果たすと考えられる。また、「現実の世界を数学の目でみること」は、本校第 2 学年のキャリア教育の目標「学校での学習が生活の中で活かされていることについて関心を持ち、可能な範囲で活かすことができる」とも整合的である。

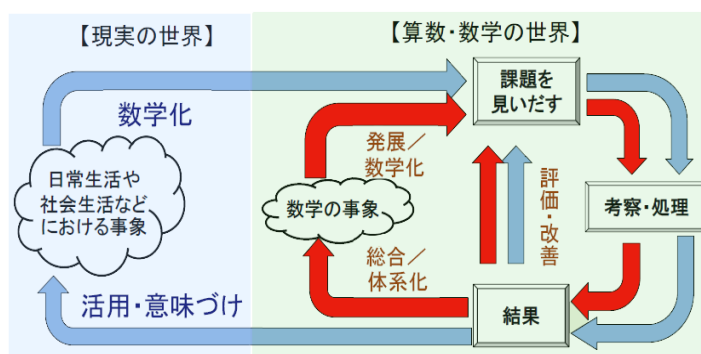


図 1 算数・数学の学習プロセス（案）

⁶ 中央教育審議会 初等中等教育分科会 教育課程部会 算数・数学ワーキンググループ（第 3 回）配付資料 資料 5 http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/073/siryu/1367186.htm（2016 年 3 月 30 日最終閲覧）

1. 授業実践の日時：平成 27 年 9 月 30 日（水）第 5 時限
2. 学級：轍中学校 2 年 3 組 32 名（男子 16 名、女子 16 名）
3. 教科書：藤井斉亮ほか（2015）『新しい数学 2』. 東京：東京書籍.
4. 単元名：「3 章 1 次関数」

5. 単元の目標・ねらい

（1）本単元の目標・ねらい

具体的な事象の中から二つの数量を取り出し、それらの変化や対応を調べることを通して、一次関数について理解するとともに、関数関係を見いだし表現し考察する能力を養う⁷。

（2）本単元とキャリア教育との接点

1 次関数は、関数関係にある 2 つの量を表・式・グラフを用いて捉えることを目標とする単元である。1 次関数は、水を熱する時間と水温の関係、等速運動における時間と道のりの関係など、身の回りの様々な事象の中に潜んでいる。それゆえ、現実の世界の事象を数学的に解釈することを意図して、この単元には、「1 次関数の利用」という内容が含まれている。しかし、「1 次関数の利用」において取り上げられる一般的な問題は、「なぜ動く必要があるのかわからない点 P」や「なぜか家を同時に出発しない兄弟」など、生徒にとって不自然な問題が多い。さらにいえば、そもそも「なぜ 1 次関数などという、原点を通らない直線のグラフを考えなければならないのか」という疑問を、生徒が抱くかもしれない。これらの問題を解決するためには、生徒が原点を通らないグラフを考えたいような事例を現実の世界から自然な形式で抽出する必要がある。この条件を満たす事例として、今回取り上げるのは、ダイヤグラムである。ダイヤグラムとは、交通機関の運行計画を表現した線図である。当然のことながら、ある路線における各列車の出発時刻は分散しているため、点を通らないグラフを考える必然性が生じると考えられる。

これらの背景の下、本校第 2 学年数学科におけるキャリア教育では、「ジェットフォイルの問題」⁸ を取り上げる。この問題は、修学旅行で佐渡島を訪れる予定の「のぞみさん」が、両津港から新潟港へカーフェリーで移動する際に、修学旅行の思い出として、すれ違うジェットフォイルの写真を背景に記念写真を撮りたいと考え、すれ違う時刻を予想するものである。

本校第 2 学年は、11 月に校外学習で佐渡島を訪れる予定である。そのため、予想した時刻にデッキに出て、ジェットフォイルの写真を本当に撮影できるのかどうかを確かめられる。「現実の世界を数学の目でみること」においては、求めた数学の結論が本当かどうかを確かめることが困難な状況も多く、しばしば予想をすることだけに留まりがちである。この課題を解決するためには、他教科や教科外活動との連携が不可欠である。つまり、数学科の授業で時刻を予想した上で、実際に校外学習に行って予想を確かめるという形をとれば、よりよい学習の実現が期待される。

以上より、本校第 2 学年数学科では、カーフェリー及びジェットフォイルの運行時刻表を基にして、班ごとにすれ違う時刻を予想する活動を行う授業を計画した。

⁷ 文部科学省（2008）『中学校学習指導要領』京都：東山書房.

⁸ 藤井斉亮ほか（2015）『新しい数学 2』（pp.79-80）東京：東京書籍.

6. 単元全体の指導計画

1 節：1 次関数

- 1：1 次関数（2 時間）
- 2：1 次関数の値の変化（3 時間）
- 3：1 次関数のグラフ（4 時間）
- 4：1 次関数を求めること（2 時間）
- 5：1 次関数とみなすこと（1 時間）

2 節：1 次関数と方程式

- 1：2 元 1 次方程式のグラフ（4 時間）
- 2：1 次関数のグラフの利用（2 時間）
- 3：連立方程式とグラフ（2 時間）

単元のまとめ（2 時間） ※本時は 1/2 時間

（計 22 時間）

7. 本時の指導

（1）本時の主題

「ジェットフォイルの写真を撮影しよう①」

（2）本時の目標・ねらい

与えられた情報を基に、1 次関数の式やグラフを利用して、班ごとにカーフェリー上からすれ違うジェットフォイルを背景に記念写真を撮影するための計画を立てる。

（3）主題について

新潟港と佐渡の両津港の間には、カーフェリーと高速船ジェットフォイルが運航している。本校の生徒たちが校外学習に行く 11/9～11/11 におけるそれぞれの船の時刻表は、次ページのとおりである。本校の生徒たちが乗るカーフェリーは、9 時 15 分に両津港を出発し、11 時 45 分に新潟港に着く予定である。本時では、これらの情報を基にして、ジェットフォイルを背景に記念写真を撮影するためには、何時何分にデッキで待てば良いのか、1 次関数を用いて求める活動を班ごとにさせる。



図 2 新潟～両津航路（67.2km）

表 1 新潟～両津航路の時刻表

カーフェリー (Car ferry)			ジェットフォイル (Jetfoil)		
期間	新潟発→両津着 Niigata → Ryotsu	両津発→新潟着 Ryotsu → Niigata	期間	新潟発→両津着 Niigata → Ryotsu	両津発→新潟着 Ryotsu → Niigata
平成 27 年 11 月 1 日～ 11 月 30 日	06:00→08:30	05:30→08:00	平成 27 年 11 月 4 日～ 11 月 30 日	07:55→09:00	07:20→08:25
	09:25→11:55	09:15→11:45		09:40→10:45	09:25→10:30
	12:35→15:05	12:40→15:10		11:30→12:35	11:15→12:20
	16:00→18:30	16:05→18:35		14:00→15:05	13:20→14:25
	19:30→22:00	19:30→22:00		15:35→16:40	15:30→16:35

出典：佐渡汽船 新潟～両津航路 平成 27 年 11 月 時刻表

<http://www.sadokisen.co.jp/timetable/1611.html?page=area1> (2015 年 11 月 17 日最終閲覧)

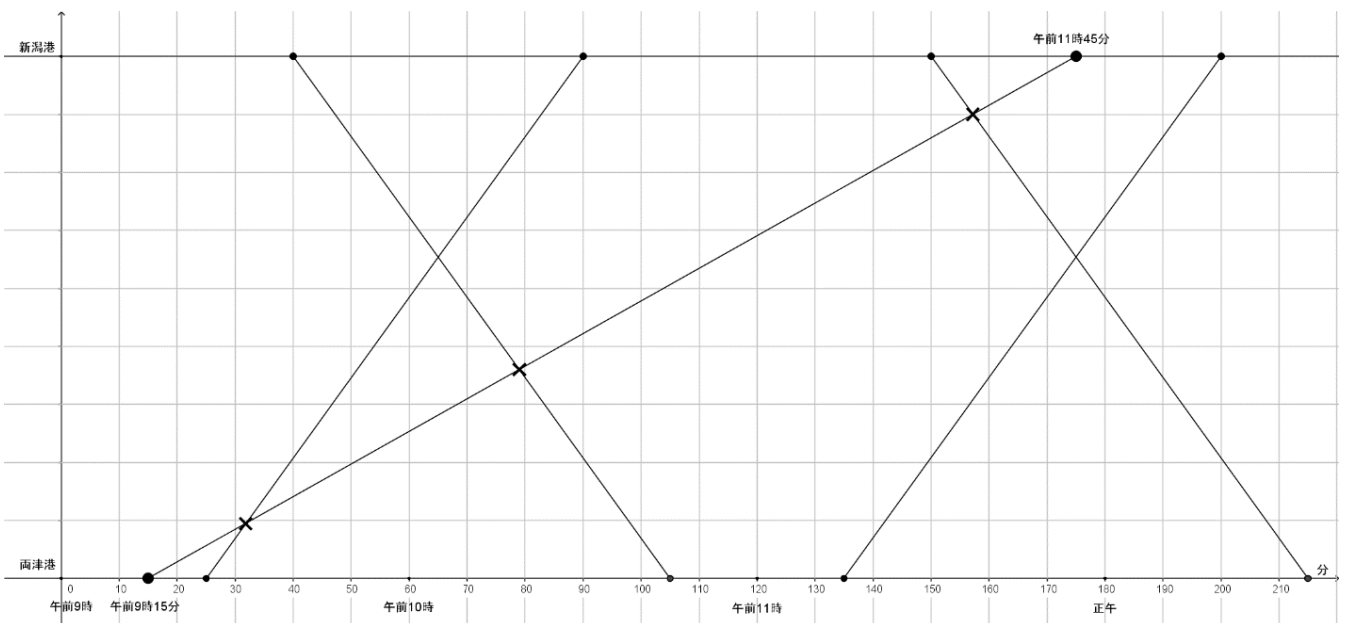


図 3 新潟～両津航路のダイヤグラム

(4) 展開

時間	学習活動	指導上の留意点
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標を提示する（教師）。 「今日は、11月の校外学習のときに、カーフェリー上からジェットフォイルを背景に記念写真を撮影するための計画を班ごとに立てましょう。」 ・時刻表を印刷したプリントを配布し、乗船する予定のカーフェリーの時刻を提示する（教師）。 	
展開Ⅰ (25分)	<ul style="list-style-type: none"> ・校外学習の活動班ごとに分かれて計画を立てる（生徒）。 【想定される生徒の活動】 ・ノートに座標平面を描く。 →縦軸・横軸・原点を設定する。 ・座標平面にグラフを記入する。 →出発点と到着点を結ぶ。 ・1次関数の式を求める。 →二点を通る直線の式を求める。 ・二直線の交点を求める。 →連立方程式を解く。 ・すれ違う時刻を班ごとに予想する。 →何時何分にデッキで待てば良いか相談する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時までには修学旅行の活動班（4人×8班）を決めておく。 ・電卓等の計算機の使用を可とする。 ・活動が停滞気味の班には、グラフの記入方法、1次関数の式の求め方などを振り返らせる介入を教師が行う。
展開Ⅱ (15分)	<ul style="list-style-type: none"> ・予想時刻とその理由を班ごとに発表する（生徒）。 【想定される生徒の考え】 ・出発時の加速及び到着時の減速の考慮 ・順風及び逆風の影響 ・それぞれの船の運行経路 ・天候等による遅延 ⇒<u>これらの要因に気づき、対処しようとする力は、「課題対応能力」である。1次関数を用いて操作的に時刻を求めて終わるのではなく、これらにどう対処するかについて、生徒たちに考えさせたい。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・各班がノートに描いたダイヤグラムをOHPで映す。 ・船の運航の様子を1次関数とみなしたときに、考慮しなければならないことを生徒に意識させる。
結論 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・次の時間の予告を行う（教師）。 「各班の発表を踏まえ、何を考慮して何を無視するべきか、班ごとに考えた上で計画を修正し、次の時間でもう一度、発表しましょう。」 	

8. 本時の評価について

・数学への関心・意欲・態度

形式的に答えを求めるだけでなく、よりよい答えを求めようとしている。

→「1次関数の計算で答えを求めて良いのか。」「船の運航の様子は、本当に1次関数になるのか。」

・数学的な見方や考え方

船の運航の様子を1次関数とみなす際の仮定を意識している。

→「船の運航速度は常に一定であると仮定する。」

・数学的な技能

与えられた点から1次関数のグラフを描き、その交点を求められる。

→「2点が決まれば、それらを通る直線も決まる。」「2直線が決まれば、その交点も決まる。」

・数量や図形などについての知識・理解

1次関数の性質を理解できている。

→「2つの1次関数のグラフの交点は、2元1次方程式の解とみることができる。」

〔追録〕指導案作成者から読者の皆様へ—キャリア教育の視点から特に工夫したこと—

本授業のアイデアは、次の文献に基づいている。

西村圭一（2004）「数学と社会・文化のつながり：ジェットフォイルをバックに記念写真を撮ろう」
『教育科学 数学教育』、pp.100-104.

指導案作成にあたっては、特にキャリア教育との関連を意識して、基礎的・汎用的能力の一つである「課題対応能力」の育成を意図した。具体的には、船の運航の様子を1次関数とみなしたときに、考慮しなければならないことを生徒に意識させようとした。本問題をよりよく解決するためには、時刻表のデータだけでなく、前年の11月の佐渡の天気や、船の最高時速などのデータも必要になると想定される。教師ではなく生徒の方から、これらのデータの必要性を提案してもらえるかどうか、キャリア教育としての要点である。

また、今回は便宜的に、轍中学校の生徒が校外学習で佐渡島を訪れるという状況を設定した。しかし、佐渡島というのは、あくまで一つの事例である。各学校における実践では、それぞれの行先でダイヤグラムを用いることができる事例を見つける必要がある。このように身の回りにある事象を数学の目でみようと心がけることは、教材研究において大切なことである。

（人間総合科学研究科博士前期課程 教育学専攻 1年 村田 翔吾）

理科学習指導案

轍中学校 教諭 栗原 和弘
野稲 剛

[轍中学校 2 年生 理科におけるキャリア教育]

内容教科である理科で学習すべきことを疎かにしないように、むしろ学習をより充実したものにできるように、理科においてキャリア教育をいかに実践していくべきか。そのような問題意識から、学習指導要領における教科の目標と本校におけるキャリア教育の目標を照らし合わせながら、理科におけるキャリア教育で重視すべきことを 3 点に整理した。

第 1 は、学習内容と身の回りにおける自然の事象・現象とを関連付け、学習したことを生活に活かせるようにすることである。各分野における学習内容を机上の学習に留めることなく、身の回りにおける事象・現象を説明したり、生活をよりよくするために知識を活用したりすることは、教科の目標の「自然の事象・現象についての理解を深めること」や「科学的な見方や考え方を養うこと」が意図するところである。

第 2 は、学習内容が現在の科学技術の分野で活用されていることを知ることを通して、学習内容が身の回りの生活だけでなく将来の職業へも有用であることを感じられるようにすることである。多様な職業の存在を知り、選択肢 1 つとして科学技術分野への関心を高めることは、「自然の事象・現象に進んでかかわること」でもあり、生涯にわたって必要となる「科学的に探究する能力の基礎と態度を育てる」ことを効果的に助長すると考えられる。

第 3 は、主として、実験・観察を中心とした授業において、すべきことを判断し、計画的に取り組めるようにすることである。「目的意識をもって観察・実験などを行う」ためには、主体的に行動し、見通しをもって活動に臨むことが大切である。

今回提示する指導案では、主として第 1 および第 2 の点を重視した指導案事例を 2 つ示す。大日本図書教科書では 2 年の内容構成は以下のとおりになっている。下線で記した単元について、「電流と磁界」を栗原が、「大気中の水蒸気の変化」を野稲がそれぞれ担当した。

<p>単元 1：化学変化と原子・分子</p> <p>1 章：物質の成り立ち</p> <p>2 章：いろいろな化学変化</p> <p>3 章：化学変化と物質の質量</p> <p>4 章：化学変化と熱の出入り</p> <p>終章：原子をもとに説明しよう</p> <p>単元 2：動物の生活と生物の進化</p> <p>1 章：細胞のつくりとはたらき</p> <p>2 章：生命を維持するはたらき</p> <p>3 章：行動のしくみ</p> <p>4 章：動物のなかま</p> <p>5 章：生物の進化</p> <p>終章 酵素のはたらきを調べよう</p>	<p>単元 3：電流とその利用</p> <p>1 章：電流と回路</p> <p>2 章：静電気と電子</p> <p><u>3 章：電流と磁界</u></p> <p>終章：抵抗の大きさを考える</p> <p>単元 4：気象のしくみと天気の変化</p> <p>1 章：気象観測</p> <p><u>2 章：大気中の水蒸気の変化</u></p> <p>3 章：前線の通過と天気の変化</p> <p>4 章：日本の気象</p> <p>終章：雨が激しくなるのはいつか</p>
--	--

1. 授業実践の日時：平成 28 年 1 月 14 日(木) 第 3 時限
2. 学級：轍中学校 2 年 1 組 32 名 (男子 16 名、女子 16 名)
3. 教科書：大日本図書『理科の世界 2 年』(2012 年度版)
4. 単元名：電磁誘導と発電

5. 単元の目標・ねらい

(1) 本単元の目標

＜自然事象への関心・意欲・態度＞

- ・コイルに磁石を出し入れしたとき電流が生じることに関心をもち、電流の向きや大きさを積極的に調べようとする。
- ・電磁誘導について、発電機など日常生活とのかかわりでみようとする。

＜科学的な思考・表現＞

- ・磁石を動かす向きと電流の向きなどについての関係を見だし、自らの考えを導いたりまとめたりして、表現している。
- ・電磁誘導の実験から、発電機の原理について考えることができる。

＜観察・実験の技能＞

- ・コイルと磁石を用いて、電流を生じさせる実験を行うことができる。
- ・磁石の動かし方と誘導電流の向きや大きさの関係を調べることができる。

＜自然事象についての知識・理解＞

- ・電磁誘導と誘導電流について理解し、知識を身につけている。
- ・発電機など、電磁誘導を利用した日常生活の事例をあげることができる。

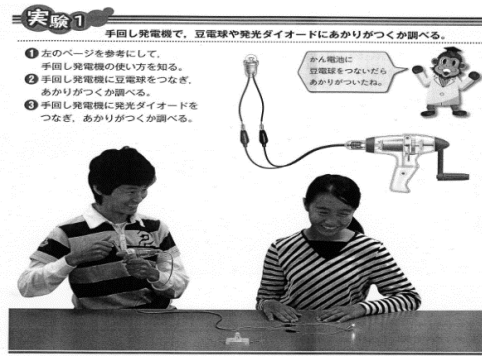
(2) 単元観

日常生活において、電気は様々な場面で使われている。私たちが利用したり使用したりしているものの中には、電磁誘導の現象を用いたものが多く存在している。電磁誘導に関するさまざまな事象を探究するとともに、日常生活とのかかわりで捉えることが重要である。

小学校第 6 学年では、手回し発電機で豆電球や発光ダイオードにあかりがつくかという実験を通して、電気をつくることを体感している(資料 1)。また、身の回りの電気の利用に触れ、電気の性質について学習している。さらに、コラムとして、発電機のしくみを発見したファラデーが紹介されており、発電機を発見した背景が書かれている(資料 2)。

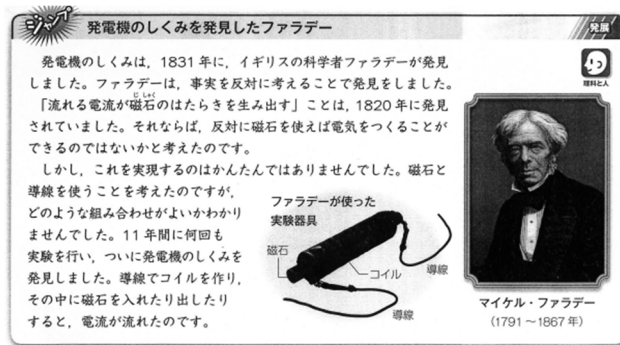
本単元では、小学校第 6 学年での学習をさらに深め、発電機のしくみや電磁誘導、誘導電流について学習を行う。磁石とコイルを用いた実験を行い、コイルや磁石を動かすことにより電流が得られることを見出すとともに、直流と交流の違いを理解することがねらいである。また、日常生活や社会で利用されているものを取り上げることにより、学習への興味・関心を高め、電磁誘導についての理解を深める。

資料 1：小学校第 6 学年での手回し発電機の実験



出典：有馬朗人ほか(2015), p.157

資料 2：発電機のしくみを発見したファラデーのコラム



出典：有馬朗人ほか(2015), p.167

(3) 本単元とキャリア教育との接点

本単元では、「電磁誘導と発電」について扱う。発電機の仕組みを理解し、電磁誘導を利用したものを考察することにより、学校での学習が生活の中で活かされていることに興味を持つ。また、科学的な見方や考え方を身に付け、日常生活や社会に活用できるようにする。さらに、理科での現在の学習が将来の職業や生活に結び付いていることに触れ、自らの将来について興味を持ち、多様な選択肢や果たすべき役割があることを理解させる。

6. 単元全体の指導計画

第 3 章 電流と磁界 (計 8 時間)

第 1 次 電流がつくる磁界 (3 時間)

第 2 次 電流が磁界から受ける力 (2 時間)

第 3 次 電磁誘導と発電 (2 時間)

第 1 時 磁石とコイルで電流が発生するかどうか調べよう

第 2 時 発電機のしくみをみてみよう・身のまわりの電磁誘導をみてみよう (本時)

第 4 次 直流と交流 (1 時間)

7. 本時の指導

(1) 本時の目標・ねらい

- ・電磁誘導の現象に関心をもち、日常生活と関連付けて考えようとする。(関心・意欲・態度)
- ・電磁誘導と誘導電流について理解し、知識を身につけている。(知識・理解)
- ・発電機など、電磁誘導を利用した日常生活の事例をあげることができる。(知識・理解)

(2) 展開

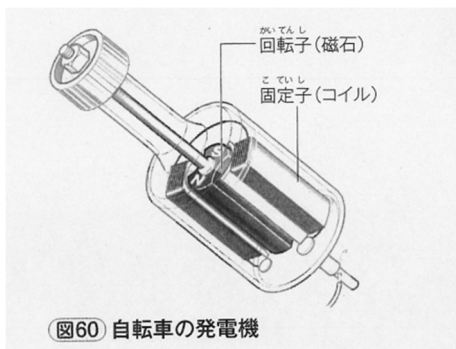
過程	時配	学習内容と活動	学習形態	○教師の支援、◎評価項目・評価方法、*留意点
導入	10分	<p>【テーマ】 「3. 電磁誘導と発電」</p> <p>【復習】 電磁誘導と誘導電流の用語を確認する。 前回の電磁誘導の実験結果のまとめを確認する。 小学校第6学年で学習した、手回し発電機が電気をつくる装置であること、発電には水力発電、火力発電、原子力発電などがあることを復習する。 小学校第6学年の教科書に載せられている電気を発明したファラデーのコラムを復習する。</p>	一斉	<p>*前時までの復習を行う。 *小学校第6学年で学習した単元「電気の性質とその利用」の復習を行う。 *小学校第6学年において、手回し発電機の実験を行い、電気をつくることを体感している。 *小学校第6学年での学習内容を復習し、小学校で学習したことが結び付いていることを理解させる。</p> <p>◎電磁誘導と誘導電流について理解し、知識を身につけることができたか。(知識・理解)</p>
展開	20分	<p>・課題提示</p> <p>【課題】 (実験) ◎「発電機のしくみをみてみよう！」</p> <p>[発問] 【問1】 身の回りの発電機として、自転車のライトの発電機がある。自転車のライトの発電機を分解して、しくみや特徴をみてみよう。 [発問] 【問2】電磁誘導の現象が利用されているものをあげてみよう。</p> <p>・グループで話し合った結果を発表してもらおう。</p>	<p>グループ</p> <p>グループごと発表</p>	<p>*自転車のライトの発電機を用意しておく。</p> <p>◎電磁誘導の現象に関心を持ち、日常生活と関連付けて考えようとしていたか。(関心・意欲・態度)</p> <p>◎発電機など、電磁誘導を利用した日常生活の事例をあげることができたか。(知識・理解)</p>
展開	15分	<p>◎「身のまわりの電磁誘導をみてみよう！」</p> <p>・発電機のしくみ ・ICカードのしくみ ・風力発電(エネルギー)</p> <p>◎「将来の職業を考えてみよう！」</p> <p>・電気工事士 ・鉄道技術者</p>	一斉	<p>◎学校での学習が生活の中で活かされていることについて関心を持ち、可能な範囲で活かすことができたか。</p> <p>◎自らの将来について関心を持ち、多様な選択肢や果たすべき役割があることが理解できたか。</p>
まとめ	5分	<p>【まとめ】(板書) ・電磁誘導と誘導電流についてまとめる。</p>	一斉	<p>*身近な事象も理科に関係していることを理解させる。</p>

8. 参考資料

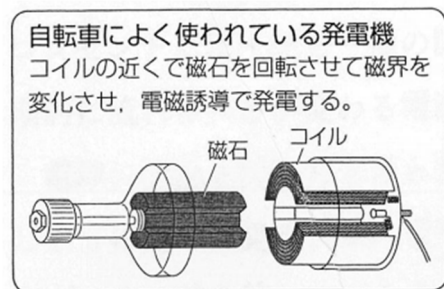
本時の指導において、参考となる資料を記す。この資料は、原則として、教師が本時の指導において参考とするためのものである。

(1) 自転車によく用いられるライトの発電機のしくみ

電磁誘導は、コイルや磁石を動かし、コイル内の磁界を変化させることにより、コイルに電流を流そうとする電圧が生じ、電流が流れる現象である。発電機は、電磁誘導を利用し、電流を連続的に発生させる装置である。ここでは、内部に磁石とコイルがあり、どちらかを回転させることにより、コイル内の磁界を変化させて、電流を発生させている。自転車によく用いられるライトの発電機も同様の仕組みをもつ。実験1では、自転車のライトの発電機を分解し特徴やしきみを捉える。



出典：塚田捷ほか(2012), p.215



出典：霜田光一ほか(2012), p.109

(2) 身の回りでの電磁誘導の利用

身の回りで電磁誘導を利用したものとして、次のようなものがある。

IC カードシステム、無接点充電器、IH 調理器

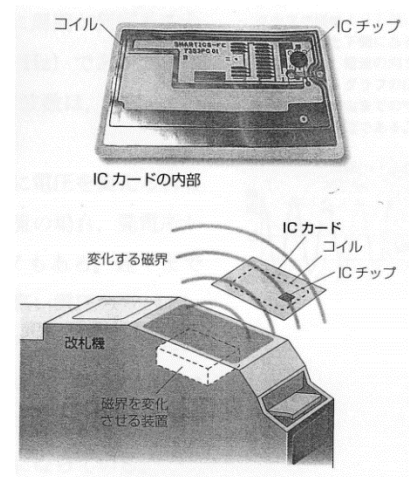
風力発電、火力発電、水力発電、原子力発電

①風力発電

風がふくと風車が回転し、その回転によって発電機内の磁石が回転する。磁石が回転し続けると、磁石の極がコイルに近づけたり離れたりするので、コイルに誘導電流が流れる。

②ICカード

IC カードは鉄道運賃の支払いや買い物の支払いなどに利用されている。IC カードの回路には電源がないのにも関わらず使うことができる。電源はIC カードの中ではなく、外に存在する。改札口でIC カードを接触させるところには、磁界を短い時間間隔で変化させる装置が仕掛けられている。一方、IC カードの中にはコイルがあるため、磁界の変化によって誘導電流が流れる。この電流によって、IC カードがはたらくというしくみである。



出典：霜田光一ほか(2012), p.110

(3) 本時の授業内容と将来の職業との結びつき

①電気工事士

建物の中で、電線を天井裏や床下などに通し、各部屋にコンセントや照明器具のスイッチを作ったりする仕事は、電気工事士という職業の人が行っている。電気は正しい知識をもとに扱わなければ大きな事故につながるため、電気工事士は私たちが生活の中で、電気を使うために欠かせない職業であり、理科で学習される知識を生かす職業でもある。

②鉄道技術士

架線は、電車のモーターに電気を送っている。一方で、走行中の電車が速度を下げるときに、発電を行う。電車の動力のモーターを発電機としてはたらくようにきりかえることにより、走行中の車輪の力で発電機を回して、発電を行いながら止まる。このように、鉄道会社や車両を製造する会社では、電気や機械の知識をもった鉄道技術者が数多く働いており、理科での発電機のしくみの学習が職業に結び付いている。

9. 引用・参考文献

- 有馬朗人ほか(2012)『理科の世界 2年』東京：大日本図書。
 有馬朗人ほか(2015)『新版たのしい理科 6年』東京：大日本図書。
 霜田光一ほか(2012)『中学校科学2』東京：学校図書。
 塚田捷ほか(2012)『未来にひろがるサイエンス2』大阪：啓林館。

[追録]指導案作成者から読者の皆様へ—キャリア教育の視点から特に工夫したこと—

轍中学校の特徴として、理科の勉強が好きだという割合が全国平均よりも下回っている。実際に授業を行っていても、生徒たちは理科の学習内容に対する理解が優れていることを感じる。

一方で、理科の授業が知識をただ教えるだけのものとなり、生徒たちは日常生活や将来とのかかわりの中で理科を学習しているという実感が持てていないように感じる。

そこで、轍中学校の理科では、本時の指導案を作成する上で、キャリア教育の視点から、以前に学習した内容を復習しながら、日常生活や将来の職業と結びつけて捉える授業展開を構想した。

具体的には、実験において自転車の発電機のしくみを捉え、小学校第6学年での学習内容をより深く学習すること、身の回りの電磁誘導を利用したものを考え、日常生活と理科の学習を関連させること、現在学習している内容や考え方が将来の職業へとつながっていることを感じることである。

このように、本時の学習は、過去、現在、未来の点として位置づいているものを、線としてつなげる役割を持ち、生徒たちに線としてつながっていることを実感させることで、キャリア教育としての大きな視点を担う。

また、科学的な見方や考え方が将来の職業に活用することができることを感じ、現在学習している理科の内容の大切さや重要性を理解し、理科を学ぶことの意義や必要性を実感させることである。

(人間総合科学研究科博士前期課程 教育学専攻 1年 栗原 和弘)

1. 授業実践の日時：平成 28 年 1 月 28 日（木）第 4 時限
2. 学級：轍中学校 2 年 2 組 32 名（男子 16 名、女子 16 名）
3. 教科書：大日本図書『理科の世界 2 年』（2012 年度版）
4. 単元名：空気中の水蒸気の変化

5. 単元の目標・ねらい

（1）本単元の目標

＜自然事象への関心・意欲・態度＞

- ・霧や露などの現象に関心を持ち、空気中に含まれる水蒸気について調べようとする。

＜科学的な思考・表現＞

- ・雲や霧などの発生と気温、飽和水蒸気量、露点、湿度などを相互に関連づけ、自らの考えを導いたりまとめたりして、表現できる。

＜観察・実験の技能＞

- ・温度計や金属コップなどの器具を適切に操作し、露点を正確に測定することができる。

＜自然事象についての知識・理解＞

- ・気温、露点、飽和水蒸気量と湿度などについて理解し、知識を身につける。
- ・湿度を計算によって求めることができる。

（2）本単元とキャリア教育との接点

標準的な指導計画に 1 時間追加する形で第 4 時に特設内容を設けた。これまでの学習内容を活かして洗濯物が乾きやすくなる条件を考える。この授業を通して、第 1 に、学習内容を身の回りの事象・現象との関連で理解させ、学んだことが日常生活で役立てるようにしたい。第 2 に、洗濯物が乾きやすくなる条件に基づき家電メーカーが乾燥機を開発していることに言及することで、学習内容が科学技術やそれを生業とする職業においても有用であることを実感させたい。

これらのことは、学習内容を身の回りの事象・現象や、科学技術・将来の職業と関連付けることを目指す本校理科のキャリア教育において、重要な視点であると考えられる。

6. 単元全体の指導計画

第 2 章 大気中の水蒸気の変化（計 8 時間）

第 1 次 空気中の水蒸気の変化（4 時間）

第 1 時 露点、演示：水滴の作り方

第 2 時 実験 1：露点をはかろう

第 3 時 飽和水蒸気量・湿度

第 4 時 洗濯物が乾くには・・・（本時）

第 2 次 雲ができるわけ（2 時間）

第 3 次 雨や雪の作り方（1 時間）

第 4 次 水の循環（1 時間）

7. 本時の指導

（1）本時の主題 「洗濯物が乾くには・・・」

（2）本時の主題について

この単元では、空気中の水蒸気が水になること、水が再び水蒸気になることを露点・気温・飽和水蒸気量・湿度などを相互に関連付けながら学習する。本時では、それらの学習を踏まえ、身近な事例として、洗濯物が乾きやすくなる条件を検討する。

洗濯物が乾く理由については、小学校4年で「蒸発」という言葉を使って説明される。他方で、洗濯物が乾きやすくなる条件については、湿度（相対湿度）の学習によって初めて可能になる。一般に、湿度が高ければ洗濯物は乾きにくく、湿度が低ければ乾きやすい。これは、湿度が「空气中 1m³中に含まれている水蒸気量」/「その気温で空気 1m³中の飽和水蒸気量」で求められることから、空气中にさらに含むことができる水蒸気の量を考えれば説明できる。したがって、洗濯物が乾きやすくなる第一義的な条件は「湿度が低い」ことである。

また、学習内容との関連から、飽和水蒸気量は気温が高くなるほど増えるため、同じ水蒸気量を含む場合、気温が高くなるほど湿度が下がるので、「気温が高い」ことも洗濯物が乾きやすくなる条件の1つである。（別の理由として、気温が高いことにより、洗濯物に含まれる水自体が温められ、蒸発しやすくなることについても言及する必要がある。）さらに、洗濯物に含まれる水が蒸発している間、洗濯物付近の空気の湿度はかなり高くなっている。そのため、空気が循環されることにより洗濯物付近の空気の湿度が下がり蒸発しやすくなるので、「風がある」ことも洗濯物が乾きやすくなる条件の1つとなり得る。

以上、本時では、「湿度が低い」「気温が高い」「風がある」を洗濯物が乾きやすくなる条件と定め、それらについて、これまでの学習内容を活かして説明することを目指す。

（3）本時の目標・ねらい

- ・洗濯物が乾きやすくなる条件について、学習内容と生活経験と結びつけて考えようとする。
（自然事象への関心・意欲・態度）
- ・洗濯物が乾きやすくなる条件（「湿度」「気温」「風」）を、空気中の水蒸気量と関連付けて考え、自分なりの言葉で表現できる。
（科学的な思考・表現）

（4）展開

時間	学習内容と生徒の活動	指導上の留意点
導入 (10分)	1. 前時の復習 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> $\text{湿度 (\%)} = \frac{\text{空気 1m}^3 \text{中にふくまれている水蒸気量 (g)}}{\text{その気温での空気 1m}^3 \text{中の飽和水蒸気量 (g)}} \times 100$ <p>※ 飽和水蒸気量は気温が高くなるほど増え、低くなるほど減る。</p> </div> 2. 本時の課題の設定 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 洗濯物が乾きやすくなる条件を考えよう。 </div>	○湿度を求める公式を想起させ、飽和水蒸気量、気温、湿度の関係を整理する。 ○湿度との関連から、洗濯物の話題を提供し、本時の課題を設定する。
展開① (10分)	3. 洗濯物を乾きやすくなる条件を予想する。 <予想される回答> <ul style="list-style-type: none"> ・晴れている ・湿度が低い ・暖かい ・気温が高い ・風がある 	○挙げられた予想を、便宜上、以下の3つの条件に整理する。 <ul style="list-style-type: none"> ①湿度が低い ②気温高い ③風がある

<p>展開② (15分)</p>	<p>4. 洗濯物が乾きやすくなる 3 つの条件を説明する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>①湿度が低い…湿度の定義より、飽和水蒸気量に対し空気中に含まれている水蒸気量が少ないので、水が蒸発する余地がたくさんあり、蒸発しやすくなる。</p> <p>②気温が高い…空気中に含まれている水蒸気量が同じでも、飽和水蒸気量が大きくなるので、湿度が低くなる。よって、蒸発しやすくなる。 (洗濯物に含まれる水自体が温められ、蒸発しやすくなる。)</p> <p>③風がある…蒸発した水分により湿度が高くなった空気が風によって循環され、洗濯物付近の湿度が低くなる。よって、蒸発しやすくなる。</p> </div> <p>5. 各自で考えた説明をグループで共有・確認する。</p>	<p>○なぜ乾きやすくなるかを、前時の内容を想起させ、自分の言葉で説明させる。</p> <p>○他人の説明が筋道の通った合理的なものになっているかを評価させる。</p>
<p>まとめ (15分)</p>	<p>6. 雨天時、屋内で洗濯物を干す場合、どのような工夫をすれば洗濯物が乾きやすくなるか考える。</p> <p>7. 洗濯物を乾かす科学技術としての乾燥機の特徴を考える。</p>	<p>○雨天時における屋外の湿度は 100%に近い。湿度・気温・風の 3 つの条件を考慮し、屋内で洗濯物を乾かすには、除湿器・暖房器具・扇風機などの活用が有用であることを確認する。</p> <p>○乾燥機は、洗濯物が乾きやすくなる 3 つの条件を組み合わせ、短時間で効率よく洗濯物を乾燥させるための科学技術であり、その開発には学習内容が活用され得ることを実感させる。</p>

7. 参考文献

「新観察・実験大辞典」編集委員会編(2000)『新観察・実験大辞典 [地学編] ②気象/天体』東京：東京書籍, pp. 32-33

【追録】指導案作成者から読者の皆様へ—キャリア教育の視点から特に工夫したこと—

四季の変化や気象の多様性に富み、他方で自然災害大国であるわが国において、大単元「気象のしくみと天気の変化」の内容は全ての生徒にとって日常生活や社会生活にとって関わり深いものである。加えて、教科書には気象予報士の仕事について紹介したコラムも掲載されている。学習内容を身の回りの事象・現象や、科学技術・将来の職業と関連付けることを目指す本校理科のキャリア教育の観点からは、「宝」が豊富に存在している。

他方で、本小単元「空気中の水蒸気の変化」は、内容としては実質的に物理的分野であり、気象現象を直接扱わないことから、他の小単元に比べ、学習内容と生活・将来との関わりが見いだしにくい。実際に、飽和水蒸気量という難解な専門用語に面食らい、気温と飽和水蒸気量、湿度と露点の関係に戸惑う生徒も少なからずいると考えられる。

そのような背景から、キャリア教育との接点を持たせた本時の授業を設けた。本単元の学習が、公式・用語の暗記や生徒の興味・関心からかけ離れた無味乾燥な学習になっている現状があるとすれば、理科においてキャリア教育を実践することによって、学習をより充実したものにする可能性がある。それこそが、本校の理科におけるキャリア教育が目指すところである。

(人間総合科学研究科博士前期課程 教育学専攻 1年 野稻 剛)

音楽科指導案

轍中学校 教諭 川端 舞

〔轍中学校 2 年生 音楽科におけるキャリア教育〕

轍中学校の生徒の特徴として、継続して何かに取り組む経験や集中力を持続させる力が不足していることが挙げられる。そこで、2年生音楽科としては、「しなくてはならないこと、すべきことの判断を適切にすることができ、それらに計画的に取り組むことができる」を目標に指導する。

轍中学校の主な学校行事の一つに合唱祭が挙げられる。轍中学校は生徒間の関係が良好で、毎年、合唱祭の時期になると、どのクラスも団結して、合唱祭で金賞をとることを目標に、練習に取り組んでいる。クラスごとの合唱祭の練習は、物事に計画的に取り組むことを経験する良い機会だと考えられる。そこで、各クラスの合唱祭の練習が始まる夏休み前に、音楽科で混声合唱の単元を扱い、混声合唱を完成させるための計画的な練習方法を学び、それを合唱祭の練習に活かせるような指導をおこなう。そして、ある目標を達成するために物事に計画的に取り組むことは、音楽の授業や合唱祭の練習だけではなく、自分の将来の夢に近づくためにも必要であることを気づかせたい。

本単元で扱う黒部美樹編曲の「ふるさと」は、特に9小節目からはソプラノから男声に主旋律を移したりハーモニーの厚みに変化をつけたりするなど、この編曲ではシンプルな旋律をより美しく、印象的な曲にする仕掛けが盛り込まれている。声部の役割と全体の響きとのかかわりの中で、それぞれの声部をどのように表現していくかを工夫していくのにとっても適した教材と言える。また、「ふるさと」は有名な曲であり、ほとんどの生徒が小学校時代にも歌った経験があるため、特段練習をしなくても、合唱はある程度成り立つと考えられる。そのような曲をあえて音楽の授業の中で4時間かけて練習するこの単元は、計画的に練習していく成果を生徒自身が実感できる単元だと言えるだろう。この単元の前後で生徒たちの歌声を録音し、生徒たちに聴き比べさせることで、生徒が自分たちの練習の成果をより実感しやすいようにしたい。

この単元で、物事に計画的に取り組むことを生徒がどのくらい身につけられたのかを、その後の合唱祭の練習の取り組みを通して見ていくことで、今後どのような指導が必要なのかをさらに考えていきたい。

1. 授業実践の日時： 平成 27 年 7 月 16 日（木曜日） 4 時限
2. 学級： 轍中学校 2 年 4 組 32 名（男子 16 名、女子 16 名）
3. 教科書： 教育芸術社「中学生の音楽 2・3 上」
4. 単元名： 「混声合唱へのステップ―さまざまな曲想の表現―
「ふるさと」（作詞：高野辰之 作曲：岡野貞一 編曲：黒部美樹）

5. 単元の目標・ねらい

（1）本単元の目標・ねらい

- ・歌詞に即した強弱表現を理解して表現を工夫することができる。
- ・歌詩の内容を生かして表現を工夫することができる。
- ・混声三部合唱の響きや美しさ感じ取ることができる。

（2）本単元とキャリア教育の接点

本単元では、4 時間連続の授業を通して、一つの合唱曲を完成させる。これは、4 時間という比較的長い期間の中で、一つの合唱曲を完成させるためにどのような計画で練習していけばいいのかを、教師が生徒に示す機会であるとも言える。この機会を活かし、物事に計画的に取り組む経験を生徒にさせることで、物事に計画的に取り組むことの大切さに気づかせ、それを合唱祭の練習や、今後の生活に活かせるような指導をおこないたい。

6. 単元全体の指導計画

1 時間目

- ・「ふるさと」の鑑賞
- ・何も指導はせずに、一度、「ふるさと」を全体で歌わせる。
（この時の歌声を録音しておく）
- ・今後、どのように練習を進めていくかの計画を、プリントを配布して、共有する。
…生徒用配布資料①を参照。このプリントは毎回の授業に持参させ、毎回の授業の初めに、その授業で学習する内容は合唱曲「ふるさと」を完成させる上でどのような意味があるのかを、全体で確認する。2 学期、生徒が合唱祭の練習をするときに参考になるようなことも、このプリントに書いておく。
- ・歌詞を読み、その意味や心情、情景などを感じ取る。

2 時間目

- ・とらえたイメージが表現できるようにパート練習をする。

3 時間目

- ・歌詞と強弱との関係をとらえて、表現の工夫をする。

4 時間目

- ・まとめの合唱（この時の歌声を録音しておく）
- ・1 時間目に録音した歌声と、この時間に録音した歌声を聴き比べて、どこが上達したかをプリント（生徒用配布資料②を参照）に記入し、全体で共有する
- ・この単元のふりかえり

7. 本時の指導（4 時間目）

（1）本時の目標・ねらい

- ・今まで学習したことを復習し、それをふまえて、合唱をする
- ・今まで計画的に練習してきたことで、合唱が上達したことを確認する
- ・ひとつのことを達成するために計画的に物事に取り組むことは、生活全般において大切であることを理解する。

(2) 展開

時間	学習内容と活動	学習形態	指導上の留意点
導入 (10分)	<p>【本時の目標】 今までの授業で学んだことを活かして、合唱「ふるさと」を完成させよう。</p> <p>ウォーミングアップとして校歌を歌う。</p> <p>「ふるさと」を全体で歌う。</p>	一斉	<p>「ふるさと」を合唱するのは本時が最後であることを確認し、今まで学んだことを思い出しながらかつてほしいことを伝える。この時間の最後に、完成した合唱を録音し、最初の時間に録音したものと聴き比べることを伝える。</p> <p>上手に歌わなくていいので、大きな声で歌うように指示をする。</p> <p>歌い終わったら、前回までの授業の内容を全体で復習していくので、まずは前回までの内容を各自で思い出しながらかつてほしいことを伝える。</p>
展開 (35分)	<p>最初の授業で配布したプリント(生徒用配付資料①)を見ながら、1時間目から3時間目まで、それぞれ、どのようなことを学んだか生徒に尋ねる。</p> <p>板書した学習内容ひとつひとつについて、最初の全体合唱で気をつけられていたかを生徒に質問し、自分で気をつけられていたと思う生徒に挙手させる。</p> <p>最初の合唱の反省点をもとに、パートごとに練習する。パートの中で反省点を確認できたら、パート内をふたつのグループに分けて、お互いの歌を聴き合い、感想を出し合う。</p> <p>パート内の練習が進んできたら、パート間で聴きあい、感想を出し合う。</p> <p>最終まとめとして、全体で歌い、合唱を完成させる。</p> <p>1時間目に録音したものと、いま録音したものを聴き比べて、どこが上達したかを、各自、ワークシート(生徒用配付資料②)に記入する。</p>	<p>一斉</p> <p>一斉</p> <p>パートごと</p> <p>一斉</p> <p>一斉</p> <p>各自</p>	<p>黒板を「1時間目」「2時間目」「3時間目」の三等分にして、それぞれ生徒から出た発言を板書していく。生徒の中から出てこなかった注意点があれば、教師から指摘する。</p> <p>挙手した生徒が少ない学習内容については、板書の該当箇所に印をつける。適宜、最初の全体合唱についての教師の感想を、できるだけパートごとに言及して述べる。</p> <p>それぞれのパートをまわり、アドバイスをする。反省点が一通り確認できた様子だったら、パート内でグループをつくって聴きあってみようとして提案する。</p> <p>黒板に板書した注意点を意識しながら、自分のパートを歌ったり、他のパートを聴いてみたりしようという声かけをする。</p> <p>「ふるさと」を歌うのはこれで最後であることを確認する。黒板の板書を見ながらかつてるように、黒板の位置を工夫する。歌声を録音する。</p> <p>ワークシートを配布する。自分たちのパートが上達した点、他のパートが上達した点、それぞれ挙げるように指示をする。</p>

	ワークシートに記入したことを全体で共有する。	一斉	何人かの生徒を指名し、発言させ、それを黒板にまとめる。
まとめ (5分)	最初の授業で配布したプリントを見ながら、今まで4時間かけて計画的に練習してきたことで、完成度の高い合唱ができたことを確認する。 各自、感想をワークシートに記入し、提出する。	一斉	計画を立てて練習することは、2学期の合唱祭の練習にも応用できることを指摘し、今度は生徒間で練習計画を立てて、練習を進めてほしいことを伝える。そして、合唱だけでなく、将来の目標を達成するためにも、計画を立てて取り組むことが大切であることを伝える。

【生徒用配付資料①：1時間目に配布するプリント [縮刷版]】

「ふるさと」を合唱しよう

「ふるさと」は有名な日本の歌なので、歌ったことのある人も多いと思います。しかし、歌い慣れた歌であっても、改めて、歌詞を深く理解したり、歌詞とメロディの関係を考えたりすることで、また違った響きがうまれます。

今週から、4週にわたって、「ふるさと」を歌っていきますが、どのように練習していくか、計画を以下に示しました。みなさんには、この4回の授業でやったことを踏まえて、夏休み以降、合唱祭に向けて、今度はみなさん自身で計画を立て、練習して行ってほしいです。

また、最初の授業では、みなさんが今どのくらい「ふるさと」を歌えるかを確認するために、一度、みなさんに自由に歌ってもらいますが、その時の歌声を録音しておき、最後の4時間目の授業の時に、1時間目の合唱と4時間目の合唱を聞き比べてもらい、どれだけ上達したかを全員で確認するので、これから頑張って練習していきましょう。

1 時間目

- 課題曲の鑑賞
- 今後の練習計画の確認
- 歌詞を読み、その意味や心情、情景などを感じ取る

2 時間目

- とらえたイメージが表現できるようにパート練習をする
→合唱祭の練習では、一つの曲をいくつかの部分に区切って、一つの部分のパート練習が終わったら、一度全体で合わせてみて、クラス全体で曲のイメージを再確認してもいい

3 時間目

- 歌詞と強弱との関係をとらえて、表現の工夫をする
→合唱祭の練習では、自分たちで考えたことを忘れないように、楽譜に書き込んでいくといい

4 時間目

- この単元のふりかえり
- まとめの合唱
- 1時間目に録音した歌声と、この時間に録音した歌声を聴き比べて、どこが上達したかをプリントに記入し、全体で共有する

※このプリントは、毎回の授業の時に持ってきてください。

【生徒用配付資料②：4時間目に配布するワークシート】

ふりかえりシート

4時間かけて「ふるさと」を練習して、どのくらい上達したでしょうか。1時間目と4時間目の自分たちの合唱を聞き比べて、上達したと感じた点を、「自分のパートが上達した点」「他のパートが上達した点」それぞれについて書いてみましょう。

2年 組 番 氏名 ()

①自分のパートが上達した点

--

②他のパートが上達した点

--

<この4時間の授業の感想>

--

8. 本時の評価について

(1) 音楽科としての評価

①音楽への関心・意欲・態度

- ・ 各声部の役割とそれらのかかわりによって生み出される全体の響きに関心をもち、主体的に合唱活動に取り組もうとしている。

②音楽表現の創意工夫

- ・ 各声部の役割とそれらのかかわりによるテクスチュアを知覚し、それらの特質や雰囲気を感じながら、全体の響きを感じ取って調和を生かした音楽表現を工夫している。
- ・ テクスチュア、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、音楽の構造を理解し、声部の役割を生かした音楽表現を工夫している。

③音楽表現の技能

- ・ 声部の役割、テクスチュア、強弱を生かした音楽表現をするために必要な技能（発声、言葉の発音、呼吸法、身体の使い方など）を身につけて歌っている。

(2) キャリア教育としての評価

物事に計画的に取り組むことが身についたかどうかは、2 学期の合唱祭の練習への取り組みで評価し、その後の指導に活かしたい。

〔追録〕指導案作成者から読者の皆様へ—キャリア教育の視点から特に工夫したこと—

本校の生徒たちの弱みとして、継続して何かに取り組む経験や集中力を持続させる力の不足が挙げられている。一方、本校は生徒同士の関係や教師との関係が良好で、毎年2 学期に行われる合唱祭の時期になると、どのクラスも団結して練習に取り組んでいる。このような本校の強みを活かしながら、生徒に、物事に計画的に取り組む経験をさせたいと考え、合唱祭の練習が始まる夏休み前に、音楽科で計画的に合唱を完成させるという経験をさせ、そこで学んだことを実際の合唱祭の練習に活かせるような指導をおこなうことにした。また、授業での練習を通して、自分たちの合唱が上達したことを生徒が実感できるように、録音機材を用いて、最初の授業で歌った合唱と最後の授業で歌った合唱を聞き比べられるようにした。合唱祭の練習が始まる前にこの指導をおこなうことで、生徒たちがどのくらい物事に計画的に取り組む姿勢を身につけられたのかを、合唱祭への取り組みを通して把握することができ、その後の指導にもつなげることができると考えた。

(人間総合科学研究科博士前期課程 教育学専攻 2年 川端 舞)

美術科指導案

轍中学校 教諭 小宅 優美

〔轍中学校 2 年生 美術科におけるキャリア教育〕

美術科にとってキャリア教育との接点は、美術作品の創造や鑑賞を通して、「社会や世界につながる」ことである。美術作品を通して作品の作り手は、作り手の想いを社会に発信するだけでなく、作り手以外の人々も、その美術作品を通して結びつけることができる。例えば、フィンランドの芸術家でありムーミンの生みの親であるトーベ・ヤンソンは、小児科の壁のデザインと製作を手がけた。そこにはデザインを通して患者にリラックスして治療を受けてほしいという彼女の思いが反映されている。この作品を通して、彼女は彼女の想いを社会にむけて発信しただけでなく、その作品に触れる様々な人間を結びつけることができたのである。本校の美術科においては、このような美術作品の持つ「社会や世界につながる」という特徴に注目し、キャリア教育との接点をつくっていききたい。

そこで生徒には、作品を創造したり、美術作品の鑑賞をしたりすることで、美術作品を通して社会や世界とつながることができるということを実感してもらいたい。また、このような活動を通して、自分の住む地域に目をむける機会を作り出したい。そこから、地域社会の一員としての自覚を芽生えさせ、生徒が一方的に地域の文化資源を享受するだけでなく、彼ら自身が文化の作り手となるというような相互関係を築かせていきたい。

1. 授業実践の日時：平成 27 年 1 月 14 日（木） 5 時限
2. 学級：轍中学校 2 年 1 組 32 名（男子 16 名、女子 16 名）
3. 教科書：日本文教出版 美術 2.3 年上
4. 単元名：Ⅱ「生きる」かたち『こころふれあう場-公共空間をデザインしよう-』

5. 単元の目標・ねらい

（1）本単元の目標・ねらい

- ・ 公共空間のデザインを通して、人々に利用されるデザイン、居心地のよいデザインを考え、人々に伝えよう。（発想や構想の能力：A 表現）
- ・ デザインを実現するための材料や表現方法を工夫しよう。（創造的な技能：A 表現）
- ・ デザインや装飾のもたらす効果を考えよう。（B 鑑賞）

（2）本単元とキャリア教育との接点

本単元のキャリア教育との接点は「公共の場」をデザインする過程にあると考える。デザインの過程で、生徒たちが「どんな人がその場を利用するのだろう」、「利用する人たちが気持ちよく利用するためには、デザインに何が必要なのだろう」といったことを考えることが、地域社会の構成に目を向けることにつながり、キャリア教育の接点になると考えるからである。

本単元では地域内のショッピングセンターにある休憩コーナーをデザインするが、そこを利用するのは、子ども連れや老人などが考えられる。生徒たちには、このような人々がどのようなニーズを抱えているかということに想像力を働かせ、彼らと休憩コーナーの利用者がデザインされた場を通してつながることができるということを実感してほしい。

さらに、ショッピングセンターには、地域内からの客が大勢集まる。生徒たちには、デザインの過程で前述のような想像力を働かせることによって、地域社会がどのような人で成り立っているのかに気がついてほしい。この過程で、生徒にとってあまり身近でない幼児や老人の姿も見えてくることが考えられるため、地域社会が多様な人々や立場で成り立っていることを知るきっかけとなるだろう。

このような観点を、本単元ではキャリア教育との接点とする。また、教師の授業の進行や発問によって、これらの観点を生徒たちにたくさん気がつかせていきたい。

6. 単元全体の指導計画

生徒が利用する頻度が高い市内北部のショッピングセンターの公共空間（休憩コーナー等）のデザインを考え、実際に展示まで行う。展示する作品は、1 クラス 1 作品をクラス内から選定する（ショッピングセンターには合計 4 作品の展示を予定）。クラス代表の選定のための時間と、展示終了後の振り返りの時間を 6 時間目と 7 時間目に確保する。展示は 3 月上旬を予定。（全 7 時間）

時	活動名	学習内容・活動	留意点
1 月 (27)	公共空間のデザインを考えよう(1) 【A 表現】	□クラスを 8 グループに分け、ショッピングセンターの休憩コーナーのデザインを考える。 ①どんな場所にしたいか、 ②誰が利用するのか、 ③自分たちでそのデザインを行うことは可能か、 ④デザインの素材は何がいいか。	□デザインをする場所の写真や基本情報、その他の場所での実践例を紹介する。 □デザインのデッサンのためのワークシートを準備する。

		<input type="checkbox"/> 班ごとに疑問点を集約し、 ①自分たちで解決できるもの、 ②教師に確認してほしいもの、 ③お店の方に聞きたいものに分ける。	<input type="checkbox"/> お店への質問に関しては、教師が次週までに確認する。
1月(28)	公共空間のデザインを考えよう(2) 【A表現】	<input type="checkbox"/> 前回の作業の続き。 <input type="checkbox"/> グループワーク前に、前回の疑問点に関して回答を全体で確認する。	<input type="checkbox"/> デザインが終わったら教師に確認させる。終わった班から作成に入る。 <input type="checkbox"/> 前回までの生徒の案から、必要な材料を準備する。
2月(29-32)	デザインを形にしよう 【A表現】	<input type="checkbox"/> デザインを作成する。 <input type="checkbox"/> 最終時間に、班ごとにプレゼンを行い、クラス代表を決定する。(1班3分×8グループ)	<input type="checkbox"/> 前回までの生徒の案から、必要な材料を準備する。 <input type="checkbox"/> プレゼンの方法は、前單元までの時間に経験済みであるため、それまでの内容を参考に発表させる。
3月上旬	展示		
3月(33)	展示を終えて 【B鑑賞】	<input type="checkbox"/> 展示を終えて、利用者からのフィードバックとクラスメイトからのフィードバックを全体で共有する。	<input type="checkbox"/> 利用者からのフィードバックはあらかじめ教師がまとめる。 <input type="checkbox"/> 感想の共有のためのワークシートを準備する

7. 本時の指導「公共空間のデザインを考えよう(1)」

(1) 本時の目標・ねらい

- ・公共空間のデザインの役割や効果に気がつくことができる。
- ・班ごとに、ショッピングセンターの休憩コーナーのデザインのためのアイデアを出すことができる。

(2) 展開

学習内容・活動	時間	指導上の留意点
1. 挨拶	1分	班編成は4月に済。 座る席は班ごとであり、既に決まっている（於美術室）。
2. 公共空間のデザインをすることについて考える。 様々な事例を紹介し、デザインがあることで空間が変容することについて気がつかせる。	15分	2. 一方的に紹介するのではなく、①どこがよいのか、②その場所の利用者は誰か、③そのデザインがあることで生まれる効果は何か④そのデザインがあることで、どんな人と人の交流が生まれるか、を発言させながら進める。 【紹介例】 筑波大学病院の廊下・病院内の図書室、ショッピングセンターの授乳スペース・トイレ、自治体にある図書館など。
3. 今回の単元ではショッピングセンターの公共空間をデザインすることを伝える。 どんな場であれば利用者にとって「利用したい」思う休憩コーナーになるかをワークシートにそって考える。(GW)	30分	3. 生徒たちがデザインする場の基本情報を最初に示す。質問や疑問があれば、2時間かけて解決することを伝える。事例から学べることは何かを考えさせる。
4. 本日のまとめ 疑問点があれば、週末に実際に行って観察をしたり、家族にヒアリングするよう求める。	4分	4. ワークシートは持ち帰らせ、次週までにデザインを完成させられるよう促す。

8. 本時の評価について

- ・公共空間の目的や機能を考えて表現することに関心をもち、造形的な美しさや使いやすさのバランスを総合的に考えて構想を練ったり、材料の特性をデザインに反映させようとしていたりしている。
(美術への関心、意欲、態度)
- ・感性や想像力を働かせて、公共空間のデザインコンセプトや使用する者の気持ちなどを基に、形や色彩の効果を生かして造形的な美しさなどを総合的に考え表現の構想を練っている。(発想や構想の能力)

- 感性や造形感覚などを働かせて、材料特性を生かし、自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫したり、制作の順序などを総合的に考え、見通しをもったりしながら、創造的に表現している。
(創造的な技能)
- 感性や想像力を働かせて、他グループのデザインのよさや美しさを感じ取ったり味わったりすることができる。公共空間を美しく豊かにする美術の働きなどについての理解や見方を深めている。
(鑑賞の能力)

[追録] 指導案作成者から読者の皆様へ—キャリア教育の視点から特に工夫したこと—

本時の指導案を作成するにあたり、美術科の教員として、生徒たちがいかに自分自身の地域や将来について考えるきっかけを作れるかという視点を大切にしたい。今回例に取り上げたショッピングセンターは、市内の様々な人間が利用する場所である。特に、休憩コーナーを利用するのは小さな子どもをつれた家族や、高齢者であることが予想される。これは、小さな子どもや、子ども連れの親に対する配慮、高齢者が必要とする配慮を考えるきっかけになるだろう。このように、休憩コーナーの利用者に対してどのような配慮ができるかということ、デザインを通して考えることで、生徒たちには自分たちの社会がどのような人々で構成されているかに気がついてほしい。また、これを通して今の自分たちが地域社会の中でできることは何かということを考えるきっかけにしてほしいと考えている。

さらに、美術作品をつくるというと、自分対作品という視点が先行しがちであるが、本単元のよう「他者のためにある美術」という美術のあり方も提示することで、生徒には様々な自由な美術のあり方に気がついてほしいという思いがある。このような授業をきっかけに、生徒にはデザインや芸術の楽しさを感じてもらい、それらに関わる仕事への興味を引き出すことができれば幸いである。

(人間総合科学研究科研究科博士前期課程 教育学専攻 1年 小宅 優美)

保健体育科指導案

轍中学校 教諭 本田 辰雄

〔轍中学校 2 年生 保健体育科におけるキャリア教育〕

保健体育科では、球技を通して、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開できるようになることが目標の一つである。球技運動では、自己の課題、集団としての課題をいかにして解決することができるかが求められている。それはキャリア教育において求められる力とも関係があると考えられる。その観点を保健体育科の授業で活かすために、実際の指導にあたっては、サッカーの競技の特性から、単に試合に勝つことよりも、自分自身やチームの課題を明確にして、授業に取り組むことを重視したい。そこで、個人技能の習得を行い、次に習得した個人技能を生かし、集団技能に結びつけたい。また、ルールを変更し、課題練習での場面を出現させることで、練習した技術を積極的に発揮できる試合を行えるようにする。班編成では最初の授業で技量が均等となるように配慮し、グループ学習の形態をとることにより、生徒間でのアドバイスや準備、片付け、記録などの作業を通して、協力し合いながら学習できる指導をしていきたい。

とはいえ、実際の授業で取り扱うサッカーは攻守が激しく入れ替わるゴール型のスポーツである。手（腕）以外の部位でボールを扱わなければならないため、他の球技に比べて、技能の習得には時間が必要となる。球技の中では、得点の入る場面が生じにくいものの、パスやドリブルでゴールするまでには複数の連携プレーによる動きと判断力が必要となる。それゆえに自らの課題を克服し、得点を入れたときの喜びは大きく、楽しみの要素となる。また、サッカーはチームスポーツという特性から、個人技能だけでなく、集団技能を高めることがゲームの内容を充実させる大きな要素といえる。実際のゲームではボールをもたない時間帯が圧倒的に長く、その時間帯にどのような動きをすればいいのかを理解、判断し、試合中に必要な集団技能を効果的に発揮できるよう工夫することも楽しさの1つであると考えられる。これまでに述べたことは、保健体育科の本来の目標を達成することのみならず、キャリア教育との接点にもなり得るだろう。

1. 授業実践の日時：平成 27 年 12 月 2 日（水）5 限
2. 学級：轍中学校 2 年 1 組 32 名（男子 16 名、女子 16 名）、
2 年 2 組 32 名（男子 16 名、女子 16 名）による合同授業
3. 教科書：学研 中学体育実技
4. 単元名：球技「サッカー」

5. 単元の目標・ねらい

(1) 本単元の目標・ねらい

- ・ ボールを扱う楽しさや喜びを味わえるように協力しながら進んで練習やゲームをしようとする。
- ・ 練習場所や用具の管理を行い安全に留意することができる。 (運動への関心・意欲・態度)
- ・ 自己の能力に適した課題の解決を目指し、練習の仕方やゲームの仕方を工夫している。
(運動についての思考・判断)
- ・ 自己の能力に適した課題の練習やゲームを通して、技能を高めることができる。(運動の技能)
- ・ サッカーの特性やルールを知り、必要な体力の高め方や技術の構造、合理的な練習の仕方を理解する。
(運動についての知識・理解)

(2) 本単元とキャリア教育の接点

- ・ 他の人と一緒に何かをするときには、周りの人と力を合わせるということを意識している。
(人間関係形成・社会形成能力)
- ・ 何か問題が起きたときには、どのようにしたらその問題が解決できるかを考えるようにしている。
(課題対応能力)

6. 単元全体の指導計画

○目標

・ 基本的な知識や技能を身につけ、それを活用して学習課題への取り組みを工夫する力を身につけさせる。[学習指導要領] E (1) ア (2) (3)

時間	学習活動	評価基準			
		関心・意欲・態度	思考・判断	技能	知識・理解
1	・サッカーに親しもう (室内)	・学習に意欲的に取り組んでいる。 ・サッカーの特性に関心を持ち、楽しさや喜びが味わえるように取り組んでいる。	・どのような個人練習がチーム練習の際に役に立つか作戦会議を行う。		・サッカーの特性を理解できる。 ・プロの試合映像を用いることで、ポジションのポイントを理解できる。
2～4	・個人技能を高める練習を行う。 (役割分担ゲームを細分化したもの)	・自己の役割を果たし、積極的に協力して取り組んでいる。 ・施設、用具の安全を確かめ、危険なプレーをしないで活動している。	・自己の課題を明らかにして、解決方法を選択できる。	・練習を通じて個人技能を高めることができる。 ・今持っている技能を發揮してゲームを行うことができる。	・技術の構造、練習方法を理解できる。 ・ゲームのルールを理解できる。

5～9	<ul style="list-style-type: none"> チームの課題学習とゲームを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ルールを守り、審判の判定や指示に従い、勝敗に対して公正な態度を取っている。 進んでゲームの運営をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己やチームの課題を明らかにし、課題解決の方法を選択できる。 ルールの工夫ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 練習やゲームを通じて、個人技能や集団技能を高めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ゲームの運営やルールを理解できる。
10	<ul style="list-style-type: none"> 学習のまとめをする 		<ul style="list-style-type: none"> 学習の成果を見つけている。 周りの人と力を合わせた成果を確認する。 課題の解決方法を共有する。 		

7. 本時の指導

(1) 本時の目標・ねらい

- 役割分担ゲーム（ポジションごとに練習する）でポジションに応じた動きができるようになる。
- 自己の能力に適した課題の解決を目指し、練習の仕方やゲームの仕方を工夫している。
(運動についての思考・判断)
- 自己の能力に適した課題の練習やゲームを通して、技能を高めることができる。
(運動の技能)

(2) 評価基準

評価場面	具体的な評価基準		努力を要する (C) 生徒への手立て
	十分に満足できる (A)	おおむね満足できる (B)	
<ul style="list-style-type: none"> 課題解決のために練習する。 練習の成果を確認するゲームを行う。 チームの課題を見つける。 	<ul style="list-style-type: none"> ディフェンスのいない位置に走りこんで正確なシュートをすることができる。 フォワードへのマークを外さず、正確にパスをカットすることができる。 互いに助言しながら、協力し合い練習している。 相手チームに応じてポジションを考えて、練習を活かしたゲームができる。 積極的に話し合いに参加し、課題を見つけることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ディフェンスのいない位置でシュートをすることができる。 フォワードに対してプレッシャーをかけることができる。 積極的にシュートをねらうことができる。 仲間の考えを理解し、自分の意見を持つ。 協力し合い練習している。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料、教科書でポイントを確認させる。理解できない部分を説明する。 走りこむ位置を助言する。 自分の役割を意識させる。 課題を見つけるポイントを助言する。

(3) 展開

段階	学習活動	指導上の留意点 (教師の指導○ 評価◎)
導入 (15分)	<ul style="list-style-type: none"> • 学習の準備(用具)をする • 挨拶、健康観察をする • ランニング、準備運動、補強運動をする。 • 学習課題の確認をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 協力して準備しているか。 ○ リーダーを中心に声を掛け合って運動を行わせる。効果のある運動になるよう助言する。
展開 (30分)	<p>自分のポジションに応じた動きの練習をする(10分)</p> <p>(ア) 守備エリア 体を張ってシュートを阻止し、ボールを奪う。速やかにボールを中盤、ゴール前へ送る。</p> <p>(イ) 中盤エリア 人とスペースの両方を見ながら相手の攻撃を止める。パスやドリブルで空いているスペースへ運ぶ。</p> <p>(ウ) 攻撃エリア 次のエリアでボールが奪えるように、プレッシャーをかけパスコースを狭める。シュートが打てるようにボールを受け、シュートする。</p> <p>実際にゲームを行う。 (20分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分たちのポジションに応じた動きの練習を選択させる ○ フォワードとの間合いを考えさせる。 ○ ディフェンスとの間合いを考えさせる。 ○ パスを出す位置を考えさせる。 ◎ ディフェンスを避けてシュートしているか。 ◎ フォワードに対してマークしているか。 ◎ 協力し合い練習しているか。 ○ 練習したことを意識して実行できるよう助言する。 ◎ 練習したことがゲームに活かされているか。 ○ ゲームの運営で自分の役割を果たすようにさせる。(審判等)
まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> • 取り組みの反省と課題の話し合いをし、発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ゲームの記録を話し合いに活かし、課題を見つけさせる。 ◎ 積極的に話し合いに参加し、自分の考えを発表しているか。

補足：準備運動の際におこなう「体づくり運動」の例

- タオルストレッチ：仰向けになり、タオルをかかとに掛けて手前に引き上げる。左右行う。このとき、反対の足はできる限り伸ばしておく。次に引き上げた足をそのまま右(左)倒して床に着ける。それぞれ10秒ずつ数えて行う。
- ボール運び：長座姿勢(開脚・閉脚)でボールを手で触りながら右(左)腰から足先を通過させ左(右)腰まで転がす。開脚・閉脚各15秒間で通過回数を計測する。右(左)→左(右)で1回とする。

〔追録〕 指導案作成者から読者の皆様へ—キャリア教育の視点から特に大切にしたこと—

追録を執筆するにあたり、私には述べておきたいこと（述べなくてはならないこと）がある。私は学生時代、体育が本当に苦手で「できれば休みたい！」と心から願うタイプの学生であった。運動神経が皆無の私にとって、体育は地獄であったのだ。そんな私が「キャリア教育学特講」において、保健体育科の教諭として指導案を執筆するように、藤田先生より指令が下った時の心情は言うまでもないだろう。実際に指導案作成にあたっては、「私が作る指導案は実際の授業と乖離しないだろうか」と非常に思い悩んだ。そのような状況でも、なんとか形にしなければならないので、近頃は薄れがちになっている記憶をたどり、当時の（苦しかった）授業を思い出しながら、執筆に取り組んだ。記憶をたどる一方で、実際の授業との乖離があってはならないので、保健体育科の指導案にも目を通した。執筆の参考となったのは勿論のこと、学校の先生方がいかに指導案上で試行錯誤しているのかを身をもって、知ることとなった。今では、保健体育科の教諭として指導案を作成できたことが非常に良い経験となっている。とはいえ、私の作成した指導案は不完全なもので、実際の授業とは乖離してしまったかもしれない。しかし、そういった点も含めて、読者の皆様には不完全な部分や苦勞を感じ取っていただき、あわせて、ご指導くだされば、幸いである。

前置きが長くなってしまったが、「キャリア教育の視点から大切にしたこと」は、端的に言うと、「保健体育科そのものの教科教育活動の目標やねらいを大切に、阻害しないこと」ということに尽きる。これは、私だけでなく、各教科の先生方も同じ思いを共有していたはずであり、それが各指導案に現れているし、読者の皆様にも伝われば、幸甚である。

おわりになるが、この指導案を授業の集大成として形にすることができたのは、お忙しい中、熱心にご指導くださった藤田先生や、轍中の先生方が貴重な時間を割いて協力し、話し合い、お互いの指導案をよりよいものにしようとする努力があったからである。協力していただいた皆様へ心から感謝の気持ちと御礼を申し上げ、謝辞にかえさせていただくこととする。

（人間総合科学研究科博士前期課程 教育学専攻 1年 本田 辰雄）

技術・家庭科 技術分野指導案

轍中学校 教諭 小山田 建太

〔轍中学校 2 年生 技術・家庭科 技術分野におけるキャリア教育〕

轍中学校 2 年生の生徒たちにとって目指すべきキャリア教育的活動とは何だろうか。その問いに迫るため、まずは彼らの現状を把握することから始めたい。校内アンケートの結果から、轍中学校の生徒たちの強みとしては「成績がおおむね良く、真面目であること」や「生徒間の関係は良好」なことが挙げられながらも、彼らの弱みとして、「将来の生き方、未来の自分を描けていない」ことや「地域の行事や、ボランティア等への参加には消極的」であること、そして全国平均に一番大きく差をつけて特に問題であると思われることとして、「継続して何かに取り組む経験、集中力を持続させる力が不足」していることが挙げられる。

このような生徒たちの現状から本校では、2 年生のキャリア教育の目標として「学外での活動や、他人とのコミュニケーションに積極的に参加できるようになる」ことや「将来の自分を描けるようになる」こと、そして「勉強したことを活用して、身の回りの問題を解決する」ことを掲げている。

これらのキャリア教育目標が立った上で、筆者が轍中学校 2 年生の生徒たちに身につけてほしい力として特に強調したいのが、「継続して物事を成し遂げる力」である。この点は彼らの特に大きな弱みとして指摘されながらも、この点が克服できることによって、彼らの学習に対する充実感を高め、物事を長い目で見通す力を培うことができると考えている。さらには、この点の克服のための中長期的な学習活動を提供することは、学校こそがその役割を担っているともいうことができるのではないだろうか。

それでは、以上のような本校としてのキャリア教育にかかわる状況や目標を踏まえながら、技術家庭科としてどのような活動を目指すことができるのかについて考えてみたい。ここで学習指導要領「第 2 章 各教科 第 8 節 技術・家庭」を参照すれば、技術家庭科の目標とは、「生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術の習得を通して、生活と技術とのかかわりについて理解を深め、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる」ことであるとまとめられており、なかでも技術分野の目標とは、「ものづくりなどの実践的・体験的な学習活動を通して、材料と加工、エネルギー変換、生物育成及び情報に関する基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、技術と社会や環境とのかかわりについて理解を深め、技術を適切に評価し活用する能力と態度を育てる」ことである。これらの記載からも読み取れるように、技術家庭科に求められているのは、生徒たちが自身の「生活」に肉迫することのできるきっかけを創出することであり、その教育目標に向けて「ものづくりなどの実践的・体験的な学習活動」を展開していくことが技術分野の要点となる。

これらより本校の技術家庭科では、生徒たちが達成感を持てるような中長期的な授業を構成することによって、生徒たちの計画性や集中力を培うことを目指す授業展開を構想したい。そして技術分野では、彼らの好奇心を湧き立たせる製作品の製作を目指した授業・単元計画を提示する。これらの活動で培われる生徒たちの経験や計画性や集中力が、彼らの将来の生き方を見通すことのできる力にも繋がっていくことを願いたい。

なお、今回構想する授業計画は中学校 2 年生の後期で一般的に行われる実習的な活動をイメージしており、家庭分野とも本校のキャリア教育目標の共有・連携を図りながら、生徒たちが「生活」の身近さを体感しながら、自身の今と将来とを合わせて考えることができるような授業作りを目指す。

1. 授業実践の日時 平成 27 年 10 月 1 日（月曜日）3～4 時限（本時は 3 時限）
 2. 学級 轍中学校 2 年 3 組 32 名（男子 16 名、女子 16 名）
 3. 教科書 『新しい技術・家庭 技術分野』（東京書籍）
 4. 単元名 2 編 2 章 製作品の設計・製作

5. 単元の目標・ねらい

（1）本単元の目標・ねらい

- ①身の回りの物への設計や仕組みについて関心を持って考えることができる。
 【生活や技術への関心・意欲・態度】
 ②制作活動を通して、製作品の使用目的や使用条件を明確にし、的確に製作品の政策に反映させている。
 【生活に工夫し想像する能力】
 ③設計に基づき、安全を踏まえた製作品の組み立て・調整や、電気回路の配線及び回路計などを用いた点検ができる。
 【生活の技能】
 ④身近な物の運動の仕組みや、用いられているエネルギーの性質が正確に把握できている。
 【生活や技術についての知識・理解】

（2）本単元とキャリア教育との接点

本単元の中心的な目標は、生徒たちの「継続して物事を成し遂げる力」を育むことであり、そのために中長期的な制作活動を設定している。しかしながら、授業のなかで彼らが主体性を持って参加できない場合には、授業の展開に支障を来す恐れが生まれ、さらには、これらの経験に充実感や達成感が見出されなくなってしまうと考えられる。ゆえに本単元では、生徒たちが好奇心を持ち続けられる制作活動を主体的に進めていけることを重要視し、そのため、本単元の導入部にあたる「学習内容の整理と製作品の決定」には特に仕掛けが必要であると考えている。なお、本単元で取り扱う製作品は作業キットを外注することを予定しており、本単元が始まる前に学年全体から取る希望を反映させることとする。これは、それぞれの生徒による製作品希望を反映することが難しいなかで、できるだけ多くの希望を反映させ、クラス全員がやりがいを見出しながら作業活動に臨めることを目指すためである。

6. 単元全体の指導計画

エネルギー変換を利用した製作品を作ろう	10 時間	
学習内容の整理と製作品の決定	1～2 時間	←本時
制作活動	7～8 時間	
製作品の評価会	1 時間	

7. 本時の指導

（1）本時の目標・ねらい

本時は、全体で 10 時間を要する制作活動に導入・展開させるための授業である。そのため本時の主眼は、今後の制作活動にあたって、授業前までに希望を集めた製作品を生活のなかでどのように活用するかや、最後の評価会をどのようなものにしたかについて、主体的に考えられるようにすることである。そしてその活動を促進するために、「活用」や「整理」では本製作品にかかわる知識や運動の仕組みを整理し、「紹介」では実物や映像資料を用いて本製作品の活用をより実感的に理解させることを目指す。これらの作業を通じて、本制作活動のゴールやプロセスを生徒たちそれぞれが意識することができると思われる。なおここで評価会については、製作品を使ったレクレーション（例：物を運ぶロボットの場合）や、素敵な製作品を評価し合う展示会（例：机の上に置くライト）などが想定される。

(2) 展開

時間	学習活動・学習内容	指導上の留意点
前回までの授業の復習 (5分)	前回までの授業のおさらい	
活用 (10~15分)	4つの製品を用意して、それぞれ簡潔に紹介する。 製品は、 A. 物を運ぶロボット B. 机の上に置くライト C. センサライト付き写真立て D. 太陽光発電を利用した充電器 前章までで勉強した知識を使って、4つの製品の運動の仕組みを整理する(ワークシートを使用)。	実物(サンプル)を用意して、生徒たちが想像できるようにする。 なお、ここで選ばれている4つの製品は教科書 pp.128-139 にて取り上げられているため、教科書を活用した授業進行も可能。 個人作業 教科書と実物を参照させながら取り組む。
整理 (5~10分)	ワークシートに埋められた内容を全体で確認・整理。	全体
紹介 (5分)	まとめ終わったら、それらの製品の詳しい紹介や活用例を紹介する。	実物や映像資料などを活用して紹介する。
提案 (15分)	今後の授業で製作する製品について、製作後に評価会をやることを説明。 「製作品をどう生活に活かせるだろうか？」 「素敵な製作品を作る工夫は何だろうか？」 「評価会をどのようなものにしようか？」 それぞれが製作物に合わせた完成見取りのノートを作る。 作業見取りのノートが完成し次第、製作開始。	今後の製作品の希望は、各クラスの事前のアンケートにて把握し、キットを準備しておく。 「作った製作品をどのように活用できるだろうか」 →生徒たちのやる気を引き出して、主体的に製作活動に取り組めるきっかけを提供することを目的とする。

[資料：生徒用ワークシート]

運動の仕組みを確認しよう！

年 組 名前

例：電子レンジ

①運動の仕組み

電力を利用してマイクロ波を発生させて、マイクロ波が物体の水分子の摩擦熱を作って、食べ物を温める

②どのようなエネルギーが使われているか

(家庭用電力 (家庭電源) → 電波 (マイクロ波))

③その製品を作るのに必要になる材料

マグネトロン

A. 物を運ぶロボット

①運動の仕組み

②どのようなエネルギーが使われているか

③その製品を作るのに必要になる材料

B. 机の上に置くライト

①運動の仕組み

②どのようなエネルギーが使われているか

③その製品を作るのに必要になる材料

C. センサライト付き写真立て

①運動の仕組み

②どのようなエネルギーが使われているか

③その製品を作るのに必要になる材料

D. 太陽光発電を利用した充電器

①運動の仕組み

②どのようなエネルギーが使われているか

③その製品を作るのに必要になる材料

8. 本時の評価について

①物の仕組みを的確に捉えようとし、自分の意見やアイデアを積極的に表現することができる。

【生活や技術への関心・意欲・態度】

②本時にて評価なし

【生活に工夫し想像する能力】

③本時にて評価なし

【生活の技能】

④身近な物の運動の仕組みや、用いられているエネルギーの性質が正確に把握できる。

【生活や技術についての知識・理解】

〔追録〕指導案作成者から読者の皆様へ—キャリア教育の視点から特に工夫したこと—

本作業の中心課題は、継続して物事を成し遂げる力を育てるためにキャリア教育として何ができるのかについて検討していくことであり、その問いに答える筆者の提案の焦点は、生徒が主体性を発揮していけることにある。そしてこのような展開をイメージした技術家庭科の教育活動が、2年生のキャリア教育の目標である「将来の自分を描ける様になる」ことや「勉強したことを活用して、身の回りの問題を解決する」ことを克服するための一助となることを願いたい。

しかしながら一方で、その他のキャリア教育目標である「地域への効力感を育てる」ことや「学外での活動や、他人とのコミュニケーションに積極的に参加できるようになる」ことには検討が及んでいない部分も多い。

ただこの点に関しては、轍中学校を取り巻く地域社会の特徴にも踏まえた考察が必要となるように感じられる。轍中学校校区では、昭和 50 年代後半に工業団地誘致成功の過去があり、旧住民が地区人口の 1/5 ほどである。また、地域住民の勤務地が主に地区内の工業団地、地区北部のショッピングセンター、そして南に隣接する外開（とかい）市内の企業となっている。このような地域の特徴から、生徒たちの身近な生活圏においては、彼らの将来のモデルとなるような大人との出会いをなかなか創出しにくい状況があるように思われる。またそのことは、自分の学習と将来のことを結びつけることが苦手の彼らの様子にも重なってくるように感じられる。

今回はこれらの地域特性にまで言及した考察を行うことができていないが、このような中学校区の地域特性をも踏まえながら、それらを強みとして生かすことのできる各校独自のキャリア教育的活動が今後検討される必要があるように思われる。

(人間総合科学研究科博士前期課程 教育学専攻 2年 小山田 建太)

技術・家庭科 家庭分野指導案

轍中学校 教諭 小山田 建太

〔轍中学校 2 年生 技術・家庭科 家庭分野におけるキャリア教育〕

轍中学校 2 年生の生徒たちにとって目指すべきキャリア教育的活動とは何だろうか。その問いに迫るため、まずは彼らの現状を把握することから始めたい。校内アンケートの結果から、轍中学校の生徒たちの強みとしては「成績がおおむね良く、真面目であること」や「生徒間の関係は良好」なことが挙げられながらも、彼らの弱みとして、「将来の生き方、未来の自分を描けていない」ことや「地域の行事や、ボランティア等への参加には消極的」であること、そして全国平均に一番大きく差をつけて特に問題であると思われることとして、「継続して何かに取り組む経験、集中力を持続させる力が不足」していることが挙げられる。

このような生徒たちの現状から本校では、2 年生のキャリア教育の目標として「地域への効力感を育てる」ことや、「学外での活動や、他人とのコミュニケーションに積極的に参加できるようになる」「将来の自分を描けるようになる」こと、そして「勉強したことを活用して、身の回りの問題を解決する」ことを掲げている。

これらのキャリア教育目標が立った上で、筆者が轍中学校 2 年生の生徒たちに身につけてほしい力として特に強調したいのが、「継続して物事を成し遂げる力」である。この点は彼らの特に大きな弱みとして指摘されながらも、この点が克服できることによって、彼らの学習に対する充実感を高め、物事を長い目で見通す力を培うことができると考えている。さらには、この点の克服のための中長期的な学習活動を提供することは、学校こそがその役割を担っているともいうことができるのではないだろうか。

それでは、以上のような本校としてのキャリア教育にかかわる状況や目標を踏まえながら、技術家庭科としてどのような活動を目指すことができるのかについて考えてみたい。ここで学習指導要領「第 2 章 各教科 第 8 節 技術・家庭」を参照すれば、技術家庭科の目標とは、「生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術の習得を通して、生活と技術とのかかわりについて理解を深め、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる」ことであるとまとめられており、なかでも家庭分野の目標とは、「衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して、生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、家庭の機能について理解を深め、これからの生活を展望して、課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度を育てる」ことである。これらの記載からも読み取れるように、技術家庭科に求められているのは、生徒たちが自身の「生活」に肉迫することのできるきっかけを創出することであり、その教育目標に向けて「衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動」を展開していくことが家庭分野の要点となる。

これらより本校の技術家庭科では、生徒たちが達成感を持てるような中長期的な授業を構成することによって、生徒たちの計画性や集中力を培うことを目指す授業展開を構想したい。そして家庭分野では、彼らの身近な生活を豊かにする布製品の製作を目指した授業・単元計画を提示する。これらの活動で培われる生徒たちの経験や計画性や集中力が、彼らの将来の生き方を見通すことのできる力にも繋がっていくことを願いたい。

なお、今回構想する授業計画は中学校 2 年生の後期で一般的に行われる実習的な活動をイメージしており、技術分野とも本校のキャリア教育目標の共有・連携を図りながら、生徒たちが「生活」の身近さを体感しながら、自身の今と将来とを合わせて考えることができるような授業作りを目指す。

1. 授業実践の日時 平成 27 年 11 月 5 日（月曜日）3～4 時限（本時は 3 時限）
 2. 学級 轍中学校 2 年 3 組 32 名（男子 16 名、女子 16 名）
 3. 教科書 『新しい技術・家庭 家庭分野』（東京書籍）
 4. 単元名 2 編 3 章 生活を豊かにするために

5. 単元の目標・ねらい

（1）本単元の目標・ねらい

- ①身の回りの暮らしや生活の工夫について関心を持って考えることができる。
 【生活や技術への関心・意欲・態度】
 ②衣生活や住生活を豊かにするための製作品を考え、製作計画や方法について自分なりに工夫している。
 【生活に工夫し想像する能力】
 ③安全に用具を取り扱い、目的に応じた縫い方で製作することができる。 【生活の技能】
 ④材料や用具の適切な選択や、用具の安全な取り扱いに関する知識を身に付けている。
 【生活や技術についての知識・理解】

（2）本単元とキャリア教育との接点

本単元の中心的な目標は、生徒たちの「継続して物事を成し遂げる力」を育むことであり、そのために中長期的な製作活動を設定している。しかしながら、授業のなかで彼らが主体性を持って参加できない場合には、授業の展開に支障を来す恐れが生まれ、さらには、これらの経験に充実感や達成感が見出されなくなってしまうと考えられる。ゆえに本単元では、生徒たちが自分の生活に合わせた布製品を主体的に選んでいけることを重視し、楽しさや面白さを感じながら自分の力で作業していけることを目指す。そのため、本単元の導入部にあたる「学習内容の整理と布で作る製作品のイメージ」には特に仕掛けが必要であると考えている。

6. 単元全体の指導計画

生活を豊かにするための布製品を作ろう	10 時間	
学習内容の整理と布で作る製作品のイメージ	1 時間	←本時
製作品の作成計画	1 時間	
基礎技能の確認	1～2 時間	
制作活動	6～7 時間	

7. 本時の指導

（1）本時の目標・ねらい

本時は、全体で 10 時間を要する製作活動に導入・展開させるための授業である。そのため本時の主眼は、今後の製作活動にあたり生徒たちが作りたい布製品を主体的に選択できるようにすることである。そして授業の「導入」部分では、生活を豊かにする布製品を活用している「モデル」を示すため、視覚教材や教師自身による演出を通して、彼らの主体性を促進することを意図している。このような活動により、その後の「発表」や「提案」の時間で生徒たちがより主体性を発揮しながら授業に参加できることを期待している。

(2) 展開

時間	学習活動・学習内容	指導上の留意点
前回までの授業の復習 (5分)	前回までの授業のおさらい 「身近で生かされている生活の工夫」	写真やスライドなどを使用する。
導入 (10～15分)	「生活の工夫は皆にもできることなんだ！」 DIY 作品の紹介。「幸せ！ボンビーガール」の出演者・森泉さんの製作映像*など… *この概要については後掲する。 「実は先生だって…」 私物の布製品を見せる（胸の花飾り、教材を入れていたトートバッグ、ポケットのティッシュケース…） 「みんなも生活を豊かにする製作品を考えてみよう！」	写真やスライドなどを使用する。 DIY (Do It Yourself の略語)
整理 (5分)	ワークシートを使用して、①、②を埋める。	各自
発表 (5～10分)	①や②にどのようなもの考えたか、発表して共有する。	全体
提案 (15分)	「布製品を作り始める前に、教科書に目を通してみよう。製作の工程を考えてみよう。」 製作にあたり、各観点の説明 (pp.144-147)。 ・製作の計画 ・製作の手順 ・型紙の選び方 ・布の選び方 ・用具の準備と使い方	選んだ布製品をどのように作ったら良いか考えさせる。

*「幸せ！ボンビーガール」とは、日本テレビにて毎週火曜日よる 10 時から放送されているテレビ番組であり、「森泉の激安リフォーム」のコーナーでは、タレントの森泉さんが主にホームセンターや 100 円ショップの機材を使って依頼者のお部屋を素敵に出張リフォームしている。このコーナーにて行われる DIY は、生徒たちの実感により近く、より魅力的なものとして映るのではないかとと思われる（以下、詳細は <http://www.ntv.co.jp/bonbi/>）。

[資料：生徒用ワークシート]

生活を豊かにする布製品の製作計画を考えてみよう！

年 組 名前

① あったら良いなと思うもの、作りたいものは何だろうか？

日ごろの生活を思い出しながら、考えてよう！

② それは、どんな風に活用できるだろうか？

③ 製作に必要なものは何だろうか？

自分が作りたいものは…

『

』



そのために必要なものは…

8. 本時の評価について

- ①生活に生かされている暮らしの仕組みや工夫について関心を示し、積極的に表現することができる。 【生活や技術への関心・意欲・態度】
- ②これからの製作活動に関わる計画を明確に立てることができる。 【生活に工夫し想像する能力】
- ③本時にて評価なし 【生活の技能】
- ④生活に生かされている暮らしの仕組みや工夫について正確に把握でき、作業内で適切な表現ができる。 【生活や技術についての知識・理解】

〔追録〕指導案作成者から読者の皆様へ—キャリア教育の視点から特に工夫したこと—

本作業の中心課題は、継続して物事を成し遂げる力を育てるためにキャリア教育として何ができるのかについて検討していくことであり、その問いに答える筆者の提案の焦点は、生徒が主体性を発揮していけることにある。そしてこのような展開をイメージした技術家庭科の教育活動が、2年生のキャリア教育の目標である「将来の自分を描ける様になる」ことや「勉強したことを活用して、身の回りの問題を解決する」ことを克服するための一助となることを願いたい。

しかしながら一方で、その他のキャリア教育目標である「地域への効力感を育てる」ことや「学外での活動や、他人とのコミュニケーションに積極的に参加できるようになる」ことには検討が及んでいない部分も多い。

ただこの点に関しては、轍中学校を取り巻く地域社会の特徴にも踏まえた考察が必要となるように感じられる。轍中学校校区では、昭和50年代後半に工業団地誘致成功の過去があり、旧住民が地区人口の1/5ほどである。また、地域住民の勤務地が主に地区内の工業団地、地区北部のショッピングセンター、そして南に隣接する外開（とかい）市内の企業となっている。このような地域の特徴から、生徒たちの身近な生活圏においては、彼らの将来のモデルとなるような大人との出会いをなかなか創出しにくい状況があるように思われる。またそのことは、自分の学習と将来のことを結びつけることが苦手な彼らの様子にも重なってくるように感じられる。

今回はこれらの地域特性にまで言及した考察を行うことができていないが、このような中学校区の地域特性をも踏まえながら、それらを強みとして生かすことのできる各校独自のキャリア教育的活動が今後検討される必要があるように思われる。

(人間総合科学研究科博士前期課程 教育学専攻 2年 小山田 建太)

英語科指導案

轍中学校 教諭 岡安 翔平

〔轍中学校 2 年生 英語科におけるキャリア教育〕

中学校の英語科で実施できるキャリア教育には多様なものがある。その中で轍中学校 2 年生は、「自分の将来について考える」ことをテーマにしたキャリア教育を実施する。これを行うのは、教科書に「自分の将来つきたい職業を考える」という授業内容が実施できるキャリア教育の単元が設定されているためだ。このように轍中学校 2 年生では教科書が英語の学習指導の題材においてキャリア教育を取り扱っていることを利用し、キャリア教育を実施する。そのため、キャリア教育を理解しそれを行っていくという意識を持ち、教科書を用いて授業を行っていけば、生徒にキャリア教育を行うことができる。そして教科書に沿って「自分の将来つきたい職業」のみを生徒に考えさせるだけでなく、それを発展させて「自分の将来について考える」ことまで実施する。

轍中学校 2 年生では職場体験を実施している。職場体験もキャリア教育の一部である。そのため、職場体験とその事前事後の指導のみのキャリア教育では、生徒に継続的なキャリア教育を実施できない。そのため、日常の学校生活全般でキャリア教育を実施する必要があり、それらすべてを関連付けて行うことが重要である。このことから、英語科ではこの職場体験活動に向けて、まず生徒が「自分が将来つきたい職業」を考え、そこから「自分の将来について考えること」に発展させることができるようキャリア教育を行う。中学 2 年生の時点で「自分の将来就きたい職業」や「自分の将来について考えること」は非常に困難であるが、それをこの時点で実施することに大きな意義がある。そして、それを経て職場体験活動を迎えることで、その成果に大きな違いが表れるはずである。

ただ、「自分の将来つきたい職業」や「自分の将来を考えること」を英語科だけですべて担えるということではない。「生徒が自分で自らの将来を考えること」を行う最初の手助けを英語科で行うということである。しかし、それはとても重要であり、英語科で行うことに責任と喜びを強く持って取り組みたい。

1. 授業実践の日時：平成 27 年 6 月 23 日（火）2 時限
2. 学級：轍中学校 2 年 4 組 36 名（男子 19 名、女子 17 名）
3. 教科書：東京書籍『NEW HORIZON English Course 2 Book 2』
4. 単元名：「Career Day」

5. 単元の目標・ねらい

(1) 本単元の目標・ねらい

本単元の目標・ねらいは、英語で①ある行動について、その目的を述べるができる②将来つきたい職業についてたずね合うことができる③本書の登場人物であるアレックスの職業体験のレポートを読んで、その内容を理解することができる④本書の登場人物である光太の職場体験のレポートを読んで、その内容を理解することができる⑥仕事紹介のインタビューを聞いて、その内容を聞き取ることができる⑦行きたい国やそこでしたいことについてインタビューをし、聞いた情報をまとめることができる⑧日常生活での出来事について、友達に 4 文以上の英語でメールを書くことができる、の 8 つである。

(2) 本単元とキャリア教育の接点

本単元はキャリア教育を題材とした単元であると、本教科書の「検討の観点と内容の特色」において記述されている。そのため、「単元から『キャリア教育の接点』を洗い出し、それをを用いて生徒にキャリア教育を行う」という通常の教科におけるキャリア教育の実施手法とは異なり、本単元はキャリア教育を行うこととして設定されている単元ため、本単元を丁寧に実施するだけでキャリア教育を行うことが出来る。しかし、教科書の内容を丁寧にを行うではなく、それに工夫を加えた指導案を作成した。その工夫は 7 本時の指導 (2) 展開 内の下線部が引かれている部分である。具体的には (2) 展開内下線部①生徒がいきなり自分の将来就きたい職業を考えるようにするのではなく、一度、授業時間外で考えるようにしたこと（「基礎的・汎用的能力」における「自己理解・自己管理能力」の涵養）、下線部②自分の将来つきたい職業を書くことが出来ない生徒を把握し、後で、教科担任と学級担任で共有すること、下線部③授業内容では「自分の将来つきたい職業を考えること」のみであったものを「自分の将来について考える」を生徒に考えさせることまで実施していることの 3 点である。①は、いきなり生徒が授業時間内に自分の将来つきたい職業を考えることは難しいためという理由だけではなく、自分で授業時間外に時間を作って自分の将来つきたい職業を考えることは生徒が自分の将来について考えるようになるきっかけとなるため、②は「自分の将来つきたい職業」を書くことが出来ない生徒は何か自分の進路形成上に問題がある可能性があると考えられ、そのような状況を担任教師と共有しておくことはその生徒が支援を必要とする際に重要な情報であるため、③は自分の「将来つきたい職業」を考えた生徒たちが、最後に教師から「自分の将来について」考えることについて伝えられ、職業のみならず将来全体について考えるようになると考えたため、この 3 点の工夫を行った。そして、これらの工夫だけでなく、授業では「自分の将来就きたい職業を伝えあう」という活動もあり、それは「基礎的・汎用的能力」における「人間関係形成・社会形成能力」に該当すると考えられる。

6. 単元全体の指導計画

回	各時の目標	指導内容等 (a:言語材料・表現、 b:場面、c:話題・テーマ、d:働き、 e:復習事項)	評価 (ア:関心・意欲・態度、イ: 表現、ウ:理解、エ:知識・理解)
1	ある行動について、その目的を述べることができる。 (パート1)	a.(言語材料・表現) 不定詞(目的を表す副詞的用法) b.(場面) 注意書き c.(話題・テーマ) 職場体験活動 d.(働き) 注意する, 指示する	イ. 何かをする目的を述べる ことができる。 ウ. 注意書きの内容を読み取 ったり, 行動の目的を聞き取 ったりすることができる。 エ. 不定詞の目的を表す副詞 的用法の形・意味・用法に 関する知識を身につけてい る。
2	将来つきたい職業につ いてたずね合うことが できる。(パート1)	a.不定詞(名詞的用法) b.対話 c.将来の夢 d.質問する, 答える d.感想を述べる, 相づちをう つ	ア. 友達の将来の夢につ いて関心を持ち, 積極的 に対話をしている。 イ. 将来つきたい職業につ いて述べる ことができる。 エ. 不定詞の名詞的用法 の形・意味・用法に 関する知識を身につ けている。
3	アレックスの職場体験活 動のレポートを読んで, その内容を理解する ことができる。(パート2)	a.不定詞(形容詞的用法) b.レポート c.新聞記者 d.説明する, 報告する	ウ. 職場体験活動のレポ ートを読んで, その内容 を理解 することができる。 エ. 不定詞の形容詞的 用法の形・意味・用法 に 関する知識を身につ けている。
4	光太の職場体験活動のレ ポートを読んで, その内 容を理解する ことができる。 (パート2)	a.不定詞 b.レポート c.サッカー選手へのインタビュー d.説明する, 報告する d.感想を述べる	ウ. 職場体験活動のレポ ートを読んで, その内容 を理解 することができる。
5	・仕事紹介のインタビュー を聞いて, その内容を 聞き取る ことができる。 ・行きたい国やそこで したいことについて インタビューをし, 聞いた情報を まとめる ことができる。 (パート2)	a.不定詞, S.V.O.O.の文 b.インタビュー c.仕事紹介 c.夢の世界旅行 d.質問する, 答える, 説明する	ア. 相手が行きたい国 について, 積極的に質問 している。 イ. 行きたい国やそ こで したいことにつ いて インタビュー をし, 聞いた 情報を まとめる こと が できる。 ウ. 仕事につ いて の インタビュー を 聞いて, 概要 を 聞き 取る こと が できる。

7. 本時の指導

(1) 本時の目標・ねらい

将来つきたい職業についてたずね合うことができる。

(2) 展開

時間	○本時の内容	・生徒の活動	・指導上の留意点
導入 10分	○前回の内容の復習 (不定詞の副詞的用法) 教師が黒板に不定詞の副詞的用法を用いた英作文の課題を出す。	・課題英作文に取り組む。	・課題英作文が書けていない生徒をフォローする。
展開 35分	○不定詞の名詞的用法を学習する。 (1) 不定詞の名詞的用法を説明する。 (2) 教師が黒板に不定詞の名詞的用法を用いた英作文課題を出す。 ○将来就きたい職業についてたずねあう。(人間形成・社会形成能力の涵養) (1) 教師が事前に用意していたプリントに自分の将来つきたい職業を書く。 (2) プリントに書いてある質問のモデル文を使って、生徒同士で自分の将来就きたい職業についてたずね合う。	・課題英作文に取り組む。 ・自分の将来つきたい職業を考える。 ・自分の書いた将来つきたい職業を伝え、相手のそれを聞く。	・課題英作文が欠けていない生徒をフォローする。 ①※前回の授業で「 <u>自分の将来つきたい職業</u> 」を本時までの考えておくように指示しておく。(自己理解・自己管理能力の涵養) ② <u>将来つきたい職業を書くことに困難を抱えている生徒を把握しておく。</u>
まとめ 5分	○本時のまとめ (1) 不定詞の名詞的用法の復習を行う。 (2) 本授業で考えた「自分の将来つきたい職業」をきっかけに自分の将来について考えることを促す言葉をかける。		③本時におけるキャリア教育のまとめになるため、丁寧に「 <u>自分の将来について考える</u> 」ことの大切さを伝える。 ②授業後、「 <u>自分の将来つきたい職業</u> 」を書いたプリントを回収し、確認する。授業内で「 <u>自分の将来つきたい職業</u> 」を書くことに困難がある生徒とプリントでそれに関して困難がある生徒について、担任教師と情報を交換する。

8. 本時の評価について

- ・ 友達の将来の夢について関心を持ち、積極的に対話をしている。(関心・意欲・態度)
- ・ 将来つきたい職業について述べるができる。(表現)
- ・ 不定詞の名詞的用法の形・意味・用法に関する知識を身につけている。(知識・理解)

[追録] 指導案作成者から読者の皆様へ—キャリア教育の視点から特に工夫したこと—

本指導案でキャリア教育の視点から特に工夫したこと、それは教師の方々に負担なくキャリア教育が実施できる指導案を作成したことである。本指導案は基本的に教科書の指導でキャリア教育が行える指導案となっている。授業を行う上で準備するものは、「自分の将来つきたい職業」を考え、生徒同士でたずね合うためのモデル文を書いたプリント程度である。そして、私自身が加えた工夫を実施にも、負担になるような内容は全くない。多忙な現役の中学校教師の方々に抵抗なく「教科における」キャリア教育が実施できるよう願いを込めて作成した。この指導案が、読者の方々や「教科における」キャリア教育の推進の何かしらの役に立てば光栄である。

(人間総合科学研究科博士前期課程 教育学専攻 1年 岡安 翔平)

【文献】

東京書籍 「NEW HORIZON ・中学校指導計画作成資料平成 28-31 年度版 ・検討の観点と内容と特色」 <http://ten.tokyo-shoseki.co.jp/text/chu/eigo/index.htm> 2016 年 3 月 30 日閲覧、引用

道徳の時間指導案

轍中学校 教諭 川上 若奈

[轍中学校 2 年生 道徳の時間におけるキャリア教育]

轍中学校第 2 学年の道徳の時間の授業においては、本校 2 年生の四つのキャリア教育の目標のうち、「自らの将来について関心を持ち、多様な選択肢や果たすべき役割があることが理解できる」という目標を中心に据える。

道徳の時間における、キャリア教育に関係する年間指導計画は以下のとおりである。

平成 27 年度 歌里亜私立 轍中学校 2 年生 キャリア教育年間指導計画 道徳の時間			
4 月		10 月	
5 月		11 月	
6 月		12 月	
7 月	集団生活の向上、役割、責任 (係・委員会活動の振り返り)	1 月	理想の実現、勤労の尊さや意義の理解 (Saint-Exupéry、 <i>“Le Petit Prince”</i> 、憧れと夢)
8 月		2 月	
9 月		3 月	集団生活の向上、役割、責任 (係・委員会活動の振り返り)

7 月と 3 月の係・委員会活動の振り返りは、各学期の最後の道徳の時間の授業で行い、果たすべき役割があること、それを果たさないと周囲に迷惑をかけること等を改めて自覚させる。

「Saint-Exupéry、*“Le Petit Prince”*、憧れと夢」は、総合的な学習の時間で 1 月に予定されている「お仕事マッピング」の活動との連携を図るために、同じく 1 月に実施する。轍地区では、「将来の夢や希望を持っている」と答えた子どもたちの割合が全国平均を下回っているという問題がある。本主題の中で、キャリア教育と関連する時限の授業では、ある人物が自分の仕事を選んだ背景を知ることのできる資料を用いる。本授業を、楽しかったこと、もっとやりたいと思ったこと、もっと知りたいこと、といった生徒の経験や探究心を、将来の夢や希望へとつなげさせることのステップとしたい。

1. 授業実践の日時：平成28年1月22日（金曜日）2時限
2. 学級：轍中学校2年1組32名（男子16名、女子16名）
3. 教材：①矢幡洋（2000年）『星の王子さま』の心理学』大和書房、24-29頁
②稲垣直樹（1992年）『サン＝テグジュペリ』清水書院、31-34頁
4. 主題名：Saint-Exupéry（サン＝テックス）、“*Le Petit Prince*”（『星の王子さま』）、憧れと夢

5. 主題の目標・ねらい

（1）本主題の目標・ねらい

第1・2時：自分の意見を持ち、クラスメイトと意見を交換し、いろいろな意見があることを理解し、受け入れることができる。

（2-5）それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があつてを理解して、寛容の心をもち謙虚に他に学ぶ。）

第3時：なじみのある人物が将来の職業を選んだ背景を知り、自分は将来の夢をどのように決めていけばよいのか考えることができる。

（1-4）真理を愛し、真実を求め、理想の実現を目指して自己の人生を切り拓いていく。

4-5）勤労の尊さや意義を理解し、奉仕の精神をもって、公共の福祉と社会の発展に努める。）

第4時：①敵同士であっても友情をはぐくんだ二人の姿から、友情の尊さを知ることができる。

（2-3）友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合う。）

②戦争の愚かさや虚しさを知ることができる。

（4-10）世界の中の日本人としての自覚をもち、国際的視野に立って、世界の平和と人類の幸福に貢献する。）

（2）本主題とキャリア教育との接点

轍中学校2年生のキャリア教育の目標の中でも、「自らの将来について関心を持ち、多様な選択肢や果たすべき役割があることが理解できる」を道徳の時間における中心的な目標としている。本主題の第1、2時において、まずパイロットと星の王子さまとの交流を描いた『星の王子さま』を読み、クラスで意見を交換し合うという活動を行う。そして第3時において、その作者であるサン＝テックスについて、特に、彼がなぜパイロットを目指したのか、その背景を、本を読むことによって学ぶ。本主題は、サン＝テックスがどのようにパイロットになるという将来の生き方を決定したのかについての資料や、彼の仕事観についての資料を読むことによって、自分が将来、どのような仕事をやってみたいのか、それをどのように決めていけばよいのか考える助けとなる。生徒たちは、考えをより深め、強化させるために、同じく1月の総合的な学習の時間における、「お仕事マッピング」という、職業に関するマインドマップを作成する活動につなげる。

6. 主題全体の指導計画

時	活動名	学習内容・活動	留意点
1 ・ 2	『星の王子さま』を読もう	『星の王子さま』の抜粋を読み、物語についての疑問・質問に対する自分の考え・意見を発表し合う。	クラスの雰囲気や生徒の状況に応じて①②③④のうち、どの方法で進めるか選択する。 ①教師があらかじめ質問を用意しておき、まず自分なりの答えを出した上で、4人ほどのグループで作品を読み、意見を出し合い、その質問に答える。 ②教師があらかじめ質問を用意しておき、まず自分なりの答えを出した上で、クラス全体で作品を読み、意見を出し合い、その質問に答える。

			<p>③作品を一度読んだ後で疑問に思った点を生徒に一人一つずつ提出させ、教師がそのうちのいくつかの疑問を選び、それらについてまず自分なりの答えを出した上で、4人ほどのグループで作品を読み、意見を出し合い、その質問に答える。</p> <p>④作品を一度読んだ後で疑問に思った点を生徒に一人一つずつ提出させ、教師がそのうちのいくつかの疑問を選び、それらについてまず自分なりの答えを出した上で、クラス全体で作品を読み、意見を出し合い、その質問に答える。</p> <p>生徒が、他の生徒の、自分とは異なる考えに触れた際、教師は、どの人の意見も否定せず尊重する態度を見せること、また、他の人の考えも、自分とは違うかもしれないけれど、その人の考えとして大切にしよう、と指導することによって、「寛容の心」を育成するようにする。</p>
3 本 時	サン=テックスがパイロットになろうと思ったきっかけは…	サン=テックスがどのようにパイロットになるという将来の生き方を決定したのかについての資料や、彼の仕事観についての資料を読む。	生徒が、本時で考えたことを総合的な学習の時間における、職業に関するマインドマップを作成する活動に活かすことができるように声をかける。
4	死の真相は…	サン=テックスの最期についての二人の証言を読む。	

なお、第1時～第4時がスムーズにつながって展開するようにするために、各時の始まりに以下のように声をかける。(第1・2時：『星の王子様』を読む) →第3時：『星の王子様』は、あるパイロットが、飛行機のエンジントラブルのせいで、砂漠に不時着して、そこで「小惑星 B612」にいた星の王子様に出会ったところから始まる物語だったよね。作者であるサン=テックスも、パイロットの仕事をしていて、その仕事から着想を得てこの物語を書いたと言われています。今日は、サン=テックスは、なぜパイロットになりたかったのか見ていきましょう。」 →第4時：「前回、サン=テックスがどうしてパイロットになったのか、パイロットとしてどんな仕事をしていたのかわかりましたね。実は彼は、このパイロットという仕事を、第二次世界大戦中も行っていて、戦争中に敵の偵察に出かけたまま行方不明になってしまったのです。」

7. 本時の指導

(1) 本時の目標・ねらい

生徒は、第1・2時で読んだ『星の王子さま』の作者が将来の職業を選んだ背景を知り、自分は将来の夢をどのように決めていけばよいのか考える。

(2) 展開

学習内容・活動	時間	指導上の留意点
1. 挨拶	1分	
2. 前回の授業の内容を思い出させる。	3分	『星の王子さま』の内容について意見を出し合ったことを思い出させ、本時の活動にスムーズにつながられるようにする。
3. 資料① 教師が資料を配布後、数名の生徒に資料を音読させる。	10分	教師が記事の内容を口頭でまとめ、全員が内容について理解したことを確認する。
4. 資料② 教師が資料を配布後、数名の生徒に資料を音読させる。	10分	教師が記事の内容を口頭でまとめ、全員が内容について理解したことを確認する。
5. ワークシートを用いた活動 ①サン＝テックスがなぜパイロットになろうと思ったのか、そのきっかけとなる子どもの頃の経験は何であったか記入させる。 ②自分の今までの経験で楽しかったことやもっとやってみたい、深く知りたいと思ったことを思い出して書かせる。 ③②で書いた経験から連想される仕事を書かせる。	25分	③の活動は、総合的な学習の時間における「お仕事マッピング」の活動とスムーズにつながられるように声をかける。
6. 挨拶	1分	

(3) 本時で使用する資料の概要

①矢幡洋(2000年)『『星の王子さま』の心理学』大和書房、24-29頁の概要

使用するのは「挫折続きの青春時代」、「転機となった砂漠の飛行場長就任」という小見出しのついた部分である。「挫折続きの青春時代」には、劣等生であった子ども時代から、航空輸送の民間会社ラテコエール社に入社するまで、「転機となった砂漠の飛行場長就任」には、入社してからサハラ砂漠の中の中継飛行場の責任者となって、才能を発揮するまでのことが書かれている。

②稲垣直樹(1992年)『サン＝テグジュペリ』清水書院、31-34頁の概要

使用するのは、「飛行機との出会い」という項目の中の「初めての飛行」という小見出しのついた部分である。サン＝テックスが、機械いじりが好きで発明好きな幼年時代を送っていた時代に、ライト兄弟の兄ウィルバーがアメリカからやってきてデモンストレーションを行った。それを見て飛行機に夢中になったサン＝テックスが、その後近くにできた飛行場で飛行機に乗せてもらえるよう交渉し、念願が適って乗せてもらい、その経験に感動する様子を描いた内容である。

8. 本時の評価について

本時の目標「なじみのある人物が将来の職業を選んだ背景を知り、自分は将来の夢をどのように決めていけばよいのか考えることができる」に対応させ、ワークシートを使用した後半の活動において、自分の将来やってみたいことについて真剣に考えているかどうか観察し、指導要録や通知表における「生活のようす」の「勤労・奉仕」にあたる部分の評価の参考にする。

【追録】 指導案作成者から読者の皆様へ—キャリア教育の視点から特に工夫したこと—

筆者は道徳教育学研究室に所属し、文学作品を用いた道徳教育の可能性について研究している。本主題で扱う『星の王子さま』は、道徳の授業においてよく用いられている。そのような授業では主に、「心で見ると。大切なものは目に見えないんだ。」という言葉が取り上げられ、本当に大切なことは何かについて考えるが、本指導案の主題の第1・2時の授業計画は、このようなありきたりな展開ではない授業はできないかと考えたものである。

第3時でのサン＝テックスがなぜパイロットという職業を選んだのかという資料を生徒に読ませる活動に興味を持って、また、自然な流れで取り組めるようにするために、第1・2時での『星の王子さま』を読む活動を、第4時ではサン＝テックスの最期についての資料を生徒に読ませることとした。これが、生徒たちが将来就きたい職業を持つことができるようになるというキャリア教育の一つの目的を達成し得るような指導案となるように特に工夫した点である。

(人間総合科学研究科 博士前期課程 教育学専攻 1年 川上 若奈)

総合的な学習の時間 指導案

轍中学校 教諭 神田 あずさ、張 羽希

〔轍中学校 2 年生 総合的な学習の時間におけるキャリア教育〕

総合の時間では、「横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に解き組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする」を目標としている。

第2学年では、上記の目標を達成するために「職場体験活動」を軸として行う。「職場体験活動」及びその事前・事後指導を通して、課題を見つける機会を与えるだけでなく、その課題の解決や自己の生き方について実際の体験を通して考えられるという点で、総合的な学習の時間の目標の達成のためには、職場体験活動は有効である。

さらに、職場体験活動は「社会とのかかわりを考える学習活動として行われると同時に、『勤労の尊さや創造することの喜びを体得し、職場体験などの職業や進路に関わる啓発的な体験が得られるようにするとともに、ともに助け合って生きることの喜びを体得し、ボランティア活動などの社会奉仕の精神を養う体験が得られる』ことが期待されていることから、「基礎的・汎用的能力を確実に育成するとともに、社会・職業との関連を重視し、実践的・体験的な活動を充実する」ことを基本方針としているキャリア教育とも一致する。

第2学年の総合的な学習の時間では、目標や単元にキャリア教育の視点・要素がどのように包摂されているのかを見いだすことはもちろん、それに加えて、「職場体験活動」を行うにあたって、総合的な学習の時間の目標でもある「横断的・総合的な学習や探求的な学習」を実行するために、どのような「職場体験活動」が望ましいのかに留意しつつ、授業を展開することにした。

なお、総合的な学習の時間では、「国際理解教育」と「職場体験活動」を関わらせながら授業を展開する。ここで、「国際理解教育」を題材とした理由は、今日のグローバル化の流れによって、私たちは世界との関わりがあってこそ今の社会や生活が成り立っていることに気づかせたかったからである。そして世界に目を向けてもらえるような授業を展開することで、これからの将来の選択肢を広めることを目的としている。

以上をふまえ、「2年生のキャリア教育の目標」の達成に向けては、以下の2点を重点的に取り組むこととする。

- ①「自らの将来について関心を持ち、多様な選択肢や果たすべき役割があることが理解できる」
- ②「歌里亜市、とりわけ轍地区で働いている人々の現状を理解し、職場体験活動等の社会的な活動に積極的に取り組むことができる。」

【年間指導計画】

〈表 1〉平成 27 年度 2 年生 総合的な学習の時間 年間指導計画 (キャリア教育関連抽出)

月	総合的な学習の時間	内容
4	・地域のなかのグローバルを探そう (国際理解教育)	自分の身の回りにあるものには、世界との関わりがあることを理解し、世界と相互につながりがあるからこそ、今の自分達の生活があること、支えてもらっていることを実感してもらおう。
5		
6	・地域の職業調べ (地域の産業の特徴、実生活との関連)	地域に多様な職業があることを把握し、それらの職業が普段の実生活でどのように関わっているか考える。 ⇒多様な職業があることを理解し、その仕事にはどんなグローバルが含まれているかも考えさせる。
7	・職場体験先を決めよう ・働くってどんなこと? ～職業模擬体験～ (地域の職業人を招いて)	・「職場体験先を決めよう」 →職場体験活動に向けて、行きたい職場の決定 ・「働くってどんなこと？」 →地域の職業人を招いて、実際模擬体験を実施し、勤労の意義を理解する。
8	・身近な人へのインタビュー	夏休みの課題として、身近な人へのインタビューを通して、地域の職業について深く知る。
9	・職場体験活動に向けての準備をしよう	・「職場体験活動に向けての準備をしよう」 →学校での学びが職場ではどのように活かせるかを考え、課題を設定し、職場体験活動で何を実践してくるか明確にする。 →職場先でグローバルを探し、地域の中のグローバル化を実感してくるよう促す。 →職場体験活動ガイダンス
10		
11	・職場体験活動 (3 日間) ・「職場体験報告書」作成	・職場体験活動
12	・「職場体験報告書」作成 ・職場体験活動発表会	・職場体験活動発表会 →職場体験活動で学んだこと、職場体験活動に行く前に設定した課題について言及するよう指導し、また、今後に向けた新たな課題の設定を促す。
1	・お仕事マッピング	これまでの学習をふまえて、自分が将来何をしたいかについて考えさせる。興味を持っている仕事を中心に調査し、情報を収集し、一つの職業に限定せず、それに関連する職業を含めたマインドマップを作成させる。
2		
3		

1. 授業実践の日時：平成 27 年 5 月 14 日（火曜日）5, 6 時限
2. 学級：轍中学校 2 年 1 組 32 名（男子 16 名、女子 16 名）
3. 単元名：地域のなかのグローバルを探そう

4. 単元の目標・ねらい

（1）本単元の目標・ねらい

本単元では、総合的な学習の時間の学習課題の一つとして例示されている国際理解を取り上げる。人・モノが国境を越えて移動する今日において、普段私たちが暮らす地域のなかにも多様な文化が存在していることに着目し、「内なるグローバル化」を扱う。工業団地である轍地区では外国人労働者が暮らしている現状をふまえつつ、今住んでいる地域の中にもグローバル化が広まっていることに気づかせ、これを機に世界にも目を向けてもらいたい。また世界とのつながりがあってこそ、今の日常生活がおくれていることに気づくとともに、相互依存のために様々な問題（環境、貧困、人権など）が生じていることを理解する。そして、これらの問題が自分と関係していることを受け止め、より広い視野をもって自己の生き方を考えられるよう、この単元を設けることとする。

また、4、5 月以降の職場体験活動とも関連させ、仕事をするうえで自分がやりたい仕事、興味ある仕事は、日本だけでなく世界のためになっていることを理解させる。

目標

- ・今の生活が世界とかわりを持っていることに気づき、視野を広める。
- ・課題について主体的に考え、それをまとめ、聞き手にわかりやすいように伝えることができる。
- ・グループ学習などを通して、意見交換をし、コミュニケーション能力の向上を図る。

（2）本単元とキャリア教育との接点

キャリア教育の視点としては、身近な地域を取り上げ、地域でのグローバル化について自ら課題を設定し、その課題について、情報を収集し、主体的に解決しようとする「課題対応」の視点が含まれている。また、グループ学習を行うことにより他者の意見を理解する力やコミュニケーション・スキルの向上を目指すという点で「人間関係形成・社会形成能力」の視点も含む。

5. 単元全体の指導計画

次	時間	内容	備考
1	1	○世界に目を向けよう！ 地球規模の問題（環境、貧困、平和など）を取り上げる。 →地球規模の問題が今の自分たちの生活との関わっているのか考えさせる。	【授業方法】 ・ワークシート
2	2	○地域で暮らす外国人について知ろう！ ～グループ学習～ 二つのグループを分ける。 A グループ：轍地域の外国籍出稼ぎ労働者について調べる B グループ：轍地域の小中学校の外国籍児童生徒の割合を調べる ・図書館、インターネットを利用して情報収集する。 ・地域で暮らす外国人について調べ、彼らは課題を抱えているのか考える。 →彼らはどんな課題を抱えているのか考える。このような課	【授業方法】 ・ワークシート ・調べ学習

		題を解決するために、我々は地域の一員として彼らと共生するためにできることについて考える。	
3	2	<p>○地域の中のグローバル【本時】</p> <p>・身近なグローバルを探そう！（例えば家庭にあるものや食材などに目を向けさせて、実際に調べることで外国とのつながりを実感できるようにする）</p> <p>→自分の周りにもグローバル化が浸透していることに気づかせ、日常生活との関わりを実感する。</p>	<p>【授業方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・調べ学習 ・グループ学習
4	1	<p>・「世界は誰かの仕事でできている」</p> <p>→〈ジョージア〉のCM*から、働くことは、一国内だけでなく世界にも影響を与えていること、そして世界中での仕事は私たちの生活を支えていることを理解する。（*詳細は後述）</p>	<p>【授業方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ活動
5	2	<p>○発表会</p> <p>これまでの授業を通して、地域のグローバル化に関する感想、どんな課題があったか、解決のためには何をしたらいいかまとめ、グループに分かれて個々に発表、グループ内で意見交換。</p> <p>最後に、職場体験活動で活かせるようなことはあるかを考え、新たな課題を設定する。</p> <p>→職場体験活動に行くときにも、自分が行く職場にどんなグローバルが隠れているか探してくるよう促す。</p>	<p>【授業方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート

* 〈ジョージア〉のCM「世界は誰かの仕事でできている」について

缶コーヒーで有名なジョージア。2014年、ジョージアでは「世界は誰かの仕事でできている」をテーマにキャンペーンが実施された。その一環として放送された「マニフェスト」篇では、子どもが俳優・山田孝之氏が演じる父親に「世界は誰が作ってんの？」と問いかけるシーンから始まる。その問いかけに対して周りにいた会社員やたこ焼き屋の店主が「俺だ！」と返答をするものである。この生き生きとした返答は、自分の仕事に誇りを持っているという印象を与え、仕事することへの興味にもつながるほか、「日本」だけではなく「世界」にも貢献していること、逆に世界中で働いている人々が私たちの生活の支えとなっていることにも気づかせてくれる素材となる。

〈参考URL〉

- ・ジョージアホームページ (<http://www.georgia.jp/>)
- ・日本コカコーラ株式会社、ニュースリリース『2014年「ジョージア」新キャンペーン「世界は誰かの仕事でできている」1月27日（月）より始動』（最終閲覧：2016/3/30）
(http://www.cocacola.co.jp/press-center/press-release/news-20140123_2)

6. 本時の指導

(1) 本時の目標・ねらい

「グローバル」というと、どうしても自分の生活とはかけ離れた、外のことのように感じてしまいがちだが、実は、自分の身近なところにも「グローバル」が存在している。このことに気づかせ、日常生活との関わりを実感させることを本時の目的とする。今回は、自分の身の回りにあるものを調べさせ、どこの国で作られたものなのか、その国と日本との関わりは何なのかを、実際に調べることで外国とのつながりを実感できるようにする。また世界とのつながりがあるからこそ、今の日常生活がおくれていることに気づかせる。

(2) 展開

時間配分	学習内容と活動	指導上の留意点
導入 10分	いつの日かの給食の写真を見せる。その食材がどこのものかを先生から説明する。	グループ(5人×4グループ)に分かれるよう指示。 ワークシートを配る。
展開1 20分	・教室の中にある世界から来たものを探す。 ・どこの国から物が多いのかランキングにし、上位4か国を提示する。	・探したものについてワークシートの質問項目に沿って記入。 ・グループごとに集計して、先生がその集計結果で上位4か国を提示し、各グループに指示をする。
展開2 25分	《調べ学習》 提示した上位4か国について、1グループ一国について調べる。(内容についてはワークシートに記載)	・インターネット(パソコン室)、社会科の教科書を使って調べることを指示。 ・調べられない項目があってもいいことを伝える。
休憩 10分		
展開2 25分	グループで調べた結果をワークシートにまとめる。 ワークシートの質問に沿ってグループで話し合う。	・ワークシート【グループ課題】①～③まで取り込むことを指示。 ・ワークシート【グループ課題】②について話すときは、1次の授業「世界に目を向けよう！」での授業を振替させる。
展開3 10分	グループの中の代表一人が、発表。	・ワークシート【グループ課題】③についてまとめた内容を簡単に発表させる。
まとめ 10分	・ワークシートの記入。 ・次の時間の予告。	

(3) ワークシート

() 年 () 組 () 班 氏名 ()

【個人課題】

～教室の中にある世界から来たものを探して見ましょう～

① 何を見つけましたか？

② 生産地は何処でしたか？

③ (もし、それが自分のものだったら、) どこで買いましたか？

④ なぜこんなに世界から物が集まるとおもいますか？

【グループ課題】

～グループでその国を調べてみましょう～

⑤ その国の輸出品は何がありますか？その中で日本に輸出しているものは何ですか？

⑥ その国ではどんな問題が起きていますか？環境、貧困、人権問題について調べてみましょう。

～調べ学習を通してグループでまとめてみましょう～

⑦ 各自調べたことをグループで話し合しましょう。

○その国の輸出品の中で日本に輸出しているものは何でしたか。それはなぜだと思いますか。

○その国からの輸出がなくなったら、日本にどのような影響があると思いますか。グローバル化における日本と世界の関わりやつながりを感じましたか。

○グループ課題⑥で指摘された問題は、日本とどのように関わっていますか？より良い世界を築くために、私たちにできることは何だと思いますか？

⑧ この授業を自分の生活と世界との関わりについて気づいたこと、考えたことを書いてみましょう。

8. 本時の評価について

本時の評価は、以下の評価基準を基に行う。特にグループ活動での様子とワークシートから評価する。

評価観点	学習方法に関すること	自分自身に関すること	他社や社会との かかわりに関すること
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のグローバル化について、どのようなものがあるか調査している。 ・適切な情報を収集する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えをまとめ、そのために必要なことに取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地球規模の問題および、地域のグローバル化について理解し、自分自身の問題として考えようとしている。 ・次の目標に向けて、行動しようとしている。

【追録】 指導案作成者から読者の皆様へ—キャリア教育の視点から特に工夫したこと—

2年次の総合的な学習の時間は、「職場体験活動」及びその事前・事後指導が主軸となり、それは本学年のキャリア教育実践の中核としての役割も果たしている。今回指導案を考えるうえで、私たち教員はより豊かな学びの機会を設定する意図から「国際理解教育」という分野に着目して単元を考えた。なぜなら、昨今のグローバル化の流れによって、私たちは世界との関わりがあつてこそ今の社会や生活が成り立っているからである。生徒にはそのことに気づいてもらいたいという想い、そして世界に目を向けることで視野を広げてもらいたいという想いがあり、本単元では「地域のグローバル化」をテーマに、探求的な活動になるようグループ学習、調べ学習を通して授業を展開することにした。特に本時では、教室の中のグローバルを探させ、身近に世界との関わりがあることを実感させることを目的とした。加えて、なぜ世界から物が集まるのかを自ら主体的に考えさせるとともに、グループ学習を通して他者の意見を聞き、自分の考えを伝えられるような授業にした。

(人間総合科学研究科博士前期課程 教育学専攻1年 神田 あずさ、張 羽希)

【参考文献】

文部科学省 (2008) 『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』 教育出版株式会社

特別活動指導案

轍中学校 教諭 高野 貴大

[轍中学校 2 年生特別活動におけるキャリア教育の目標]

特別活動 WG では「2 年生のキャリア教育目標」に基づき、以下の目標を立てた。

- ・ 自らが果たすべき学校・学級集団での役割や適性を理解し、計画的に取り組むことができる。
- ・ 自身の適性を考えながら、進路計画を立てることができる。

1 つ目の目標にある「自らが果たすべき学校・学級集団での役割や適性を理解」ということは、自らの将来についての選択肢や役割を考える基礎となると考える。なぜなら、生徒にとって、身近な学校や学級という「集団」での役割を理解し取り組むということは、社会の一員としての態度を培うことへつながるからである。次期学習指導要領の育成すべき資質・能力の軸は「知っていることを使ってどのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」である。「社会・世界との関わり」を身近な場から広げていくことが重要であり、それを特別活動で担うことが重要であると考え。

この目標に向けた指導は「学級での話し合い活動」を主たる場として想定している。なぜなら、学級での話し合い活動を通じて、生徒は参画し、振り返り、社会的実践力を身に付けていくことができるからである（国立教育政策研究所 2014）。

2 つ目の目標は、自身の現状の役割や適性を理解したうえで、将来の自分の姿を想像しながら、進路計画を立てていくことを想定している。将来就きたい職業には、自分の適性上、何が足りないのかを分析することや、見出していった役割や適性から自分の将来を構想していくなど進路計画の立て方は多様であろう。ここで重要なのは、進路計画をきっちりと固めることではなく、自己分析に基づいて将来を考えることの重要性に気づくことである。

以上の目標設定を前提として、次頁のとおり、特別活動のキャリア教育年間指導計画を設定した。

特別活動・キャリア教育の年間指導計画

月	学校行事等	学級活動
4	始業式 入学式 新入生歓迎会 部活動集会	<ul style="list-style-type: none"> ・2年生になって ・係・委員会決め ・学級目標づくり
5	中間テスト 体育祭	<ul style="list-style-type: none"> ・学校・学級への貢献 一前期分 ・「集団」の一員であることの意識 ・これからの学校行事に向けて →自分の役割に焦点を当てて
6	期末テスト	<ul style="list-style-type: none"> ・体育祭のふり返り
7・8		【道徳の時間】
9	中間テスト	係・委員会活動のふり返り
10	合唱祭	<ul style="list-style-type: none"> ・合唱祭に向けて →自分の役割に焦点を当てて
11	校外学習(佐渡) 職場体験活動	<ul style="list-style-type: none"> ・合唱祭のふり返り ・学校・学級への貢献 一後期分 ・校外学習に向けて ・「一皮むける経験」
12	期末テスト 生徒会役員選挙	<ul style="list-style-type: none"> ・私の適性大発見
1		<ul style="list-style-type: none"> ・進路計画を立て、話し合おう
2	期末テスト 球技大会	<ul style="list-style-type: none"> ・将来の進路を考えてみよう
3	送る会 卒業式・終業式	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生に向けて 【道徳の時間】係・委員会活動のふり返り

★印は副教材を用いながらの「授業」形式

1. 授業実践の日時：平成27年11月2日（月）6時限
2. 学級：轍中学校2年1組32名（男子16名、女子16名）
3. 題材：合唱祭のふり返り

4. 題材について

（1）生徒の実態とこれまでの指導の経緯

本校生徒は、「授業にはまじめに取り組み、生徒間関係も教師との関係も安定的」であり、望ましい生徒間関係⁹が築けている。その把握は、本学級の生徒にも当てはまる。

そこで、本学級（本学年）では、それぞれの生徒が学校・学級集団でのそれぞれの役割に責任をもつことができるような指導と生徒の活動を展開してきた。それは、本学年のキャリア教育としての特別活動目標である「自らが果たすべき学校・学級集団での役割や適性を理解し、計画的に取り組むことができる。」とも密接に関係している。

これまでの学級活動の経緯をまとめる。4月には、係・委員会活動の役割決めと学級目標の決定に合わせて、それぞれの生徒が学校・学級で果たすべき役割について考えた。例えば、美化委員会として校内美化に取り組むために、学級での美化にも取り組むや、国語係として国語担当教諭にいち早く次回の漢字テストの範囲を聞き、漢字テストの平均点向上に寄与するなどが意見として出された。5月には、体育祭に向けて、学校・学級で果たすべき役割についてそれぞれが理解するよう事前の指導をした。事前の指導では、それぞれの役割を考えさせ、話し合い活動を行わせた。例えば、体育祭実行委員会誘導係としてスムーズな体育祭進行に努めたいという意見や、リレー選手として勝利に貢献するため、バトン練習を先頭に立って引っ張りたいなどの意見が出た。

また、体育祭後の学級活動では、体育祭において学校・学級集団での役割をどれくらい果たせたかについてふり返り活動と話し合い活動を行わせた。

（2）題材設定の理由・目標

本学級では集団でのそれぞれの役割と責任を自覚させるような指導を4月以降続けてきた。その中では、「集団での役割の自覚化⇒実際に取り組む」という手順を前提として取り組んできた。体育祭ではこれに加えて、ふり返りまでをセットとして行った。

本時は、4月以降本学級の生徒に意識させてきた集団での役割の自覚化とそのふり返りという取り組みを踏襲したものとなっている。平成27年10月24日（土）の合唱祭に当たっては、音楽の時間での合唱計画の作成をはじめ、学級活動の時間を利用して、合唱の作戦会議と、それぞれの合唱における役割を自覚化させるような取り組みを行ってきた。こうした点は、学級づくりや体育祭に向けての取り組みを踏襲しており、「集団での役割の自覚化⇒実際に取り組む」という手順で進めてきた。

以上を踏まえ、本時では4月以降培ってきた集団での役割の自覚化という取り組みを、それぞれが深化、醸成させて欲しいと考え、本題材を設定した。

5. 題材指導の目標・ねらい

（1）本題材の目標・ねらい

○学校・学級集団の一員として所属感や連帯感を深める。

○果たしてきた役割についてふり返り、人間としての生き方に自覚を深め、実践的態度を養う。

⁹ 遠藤(2012)によれば、学級活動における「望ましい人間関係」とは様々なレベルがある。それは「他者から物理的、心理的に攻撃されない安全のレベル、人格が認められるレベル、個性が認められるレベル、相互に価値を認め合いむつまじいレベル、役割を分担し共同活動ができるレベル、よりよい共同生活をめざし協力し合うレベルなどである。」(p.33) 本学級は、望ましい人間関係が築けていると把握できるため、上記6つのレベルのうち、「相互に価値を認め合いむつまじいレベル」以降のレベルに位置すると捉えている。

(2) 本題材とキャリア教育との接点

学級活動の一環でもある係活動の他、生徒会活動（委員会活動）、学校行事（体育祭、合唱祭）を通じて、生徒それぞれが役割や適性を考えてきた。そうした学級集団の中での自身の位置づけや役割を考えることで、進路選択や進路計画を考える際の自己分析に役立つ。今後の2年生の特別活動や3年生に進級してからの指導において、自己分析を行ったうえで自身のキャリアについて見つめられる生徒を育成する足がかりとして、本題材の指導を行うことは有益である。

6. 評価の視点と本授業における評価規準

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団や社会の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
学級生活の向上に関心を持ち、合唱祭に向けた取り組みと事後の振り返りに自主的・自立的に取り組もうとしている。	学級・学校の一員としての自己の役割と責任を自覚し、ふり返りを適切にできる。	合唱祭に向けて、自身の役割と責任を自覚化して取り組み、ふり返ることの意義について理解しようとしている。

7. 展開の過程

(1) 事前の指導と生徒の活動

- ワークシート案（後掲）を作成したうえで、学級活動委員会を招集する。

日時	活動の場	活動内容	指導上の留意点	評価方法
10/30(金)	昼休み (学級活動委員会)	参加者：担任、学級委員(男女各1名)、合唱パートリーダー各1名(3名)、指揮者、伴奏者 計8名 ・教師が作成したワークシートを基に、学級会で議論する内容を決める。 ・議事進行、役割分担の決定。	・生徒の意見を聞き、合唱祭の反省だけでなく、学級の生徒それぞれがそれぞれの役割をふり返る目的からそれないようにする。 ・ワークシートは仮のものであり、適宜内容を変えられることを指示する。	【関心・意欲・態度】 ・これからの学級の向上を意識した学級会を組もうと意識している。

(2) 本時の展開と生徒の活動

	内容	指導上の留意点	評価規準と方法
活動の開始 (二〇分)	1 ワークシート配布 2 開会の言葉 (担当生徒) 3 本学級会の趣旨説明 (学級委員)	・学級会ができる教室の席配置(コの字型2列)にあらかじめ用意	
	4 教師の話	・「合唱祭の経験をこれからの学級に生かすにはどうしたらよいか」	

【提案理由】10月24日の合唱祭では惜しくも3位入賞となり、目標としてきた優勝はできなかった。これまで合唱祭に向けて練習、作戦会議など色々な取り組みをしてきた。本学級会では、なぜ優勝できなかったのか反省するとともに、それぞれが合唱祭に向けてどう取り組んできたかをふり返りたいと考えている。これを通して、より良い学級をみんなで作り上げるきっかけとしたい。

<p>活動の展開 (三〇分)</p>	<p>5 全体議論(10分) クラスとしての取り組みの、良い点・悪い点をあげよう。</p> <p>6 個人作業(7分) ・合唱祭に向けての取り組みにおいて自分が果たしてきた役割と責任を合唱祭前の取り組みと比較して記述する。</p> <p>7 班での共有(13分) ・班ごとに記述したものを共有する。</p>	<p>・ワークシートに自考とクラスの見解をメモさせる。</p> <p>・事前指導と同様「合唱」している時だけでなく、練習の際の雰囲気作りや、誰よりも早く来て練習体制を整えるなどの要素も役割として十分であるということを助言する。</p> <p>・学級活動委員会に出た生徒は班のファシリテーターとして入ってもらう。</p>	<p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いへの参加 <p>【思考・判断・実践】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの記述 ・話し合いへの参加 <p>【思考・判断・実践】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの記述 <p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観察
<p>活動のまとめ (一〇分)</p>	<p>8 ふり返りを通じて気づいたことを記述する</p> <p>9 感想記入</p> <p>10 教師の言葉</p> <p>11 閉会の言葉</p>	<p>・学級委員をはじめ、学級活動委員会の生徒に感謝する。</p>	<p>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの記述

「合唱祭の振り返り」学級会ワークシート

年 組 番 氏 名

○合唱祭に向けたクラスの取り組み

・良かった点

△自分の考え

・悪かった点

△自分の考え

△全体議論で出た意見

△全体議論で出た意見

○合唱祭に向けて自分が果たした役割

△事前に掲げた役割が果たせた? ... Yes / No

事前に掲げた役割 ↓

△Yes or No 理由は?

△掲げた役割以外に果たせたことがある人は記入

○合唱祭に向けたクラスの取り組みと自分自身の役割を振り返って感じたこと・気づいたこと

○今日の学級会を振り返って感じたこと・気づいたこと・感想をも

【追録】指導案作成者から読者の皆様へ—キャリア教育の視点から特に工夫したことと留意点

キャリア教育を考える際、自身の適性や自己について適切に分析できているかは非常に重要な要素である。そういった観点から、特別活動の特徴である「集団活動」や「集団の一員としての自覚」を持つ部分から、つまり自身を集団の中に置いたときに、相対的に見て自分はどのような人間なのかを生徒が考えられる授業を提案したかった。また、学級という身近な集団から、「社会の一員」としての広がりを見出せる足がかりとして本時を作り上げたかった。生徒たちが、自身のキャリアを見据える上で、自分を冷静に眺めてみる機会がこの授業でもたらされれば、授業としては成功であると思う。

ただし、授業者の視点から一步引くと、留意点がある。それは、この実践をする際、授業者は「学級」集団がどのような性格を持つかを頭の片隅に置いておく必要があるという点と直結する。

蓮尾は「学級社会」を社会の一下位体系として位置づけ、①児童生徒の個人的意思とは関わりなく、法律上義務付けられた出席不可避な集団であること、②教師と児童生徒により構成された制度上の垂直的関係構造を呈する単位であることの2点を特徴としてあげた(蓮尾,2013,p.134)。その上で、「学級は、きわめて偶発的・偶然的な要素によって定められており、その学級構成員としての児童生徒たちは、年齢や居住地域等、相対的な同質性を保持するものといえる」(蓮尾,2013,p.134)としている。相対的な同質性を持つ「偶発的な」集団である学級で、本時のように「役割や適性」を見出させ、自己分析をさせようとする試みは、生徒のキャリア形成において、何をもちし得るのだろうか。学級の一員として、自身の位置づけや自覚を見出させることは、閉じられた社会の中へ押し込める暴力的な行為とも取られかねない。なぜなら、学級で役割や自覚を見出せない子どもが、社会の一員として役割や自覚を見出せないとは言い切れないからである。

現在、ヒト・モノの移動が拡充・拡散し、「価値」が多様化し続けている。こうした現代において、子どもそれぞれが効力感を持って、自身の可能性を考えられる教育としてキャリア教育を位置づけるならば、偶発的な集団としての学級での活動とキャリア教育の結節点を描くことは容易なようで難しい。キャリア教育の趣旨は、子どもの現前にある限定された「現実」(＝学級集団での役割)から将来を見出させることではなく、子どもの「可能性」を引き出し、自己効力感を養うことにある。こう考えるならば、相対的な同質性を持つ偶発的な集団である「学級」での役割が、子どもたちのキャリア形成に直結すると簡単に結びつけてはいけない。各々の子どもにとって、オルタナティブな道があるのではないかという問いを授業者が持ち合わせた上で、結節点を構想していく必要があるだろう。

(人間総合科学研究科博士前期課程 教育学専攻 1年 高野 貴大)

【文献】

- ・遠藤忠 (2012) 「学級活動」 林尚示編著『教職シリーズ 5 特別活動』培風館、pp.22-43。
- ・国立教育政策研究所 (2014) 『学級・学校文化を創る特別活動 (中学校編)』(教員向けリーフレット) (http://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/tokkatsu_j_leaf.pdf?time=1447567618727 最終閲覧: 2015年11月15日)
- ・蓮尾直美 (2013) 「学級社会への新たな視座」 蓮尾直美・安藤知子編『学級の社会学—これからの組織経営のために』ナカニシヤ出版、pp.131-155。